

令和3年1月20日



研究だより

第56号

自治医科大学附属さいたま医療センター



ケース・レポートについての私見

総合診療科 学内教授 菅原 斉

私たちには、珍しい症例の経験だけではなく、特に、貴重な教訓を教えていただいた患者さんに遭遇した場合に、その教訓を人類の共有の財産として残しておく使命があります。臨床医であれば、どこに勤務していても書くチャンスがあるケース・レポートですが、そのエビデンス・レベルは低いとされています。しかし、私たちは、これまでに、診療している患者さんの診断や治療で、ケース・レポートに助けられた経験があるはずです。ある日突然、一度も引用されたことがないケース・レポートから、重要な知見を得ることもあります。したがって、ケース・レポートには、被引用回数に関わらず「記録として、世の中に（できればクラウド上に）存在していること」自体に意義があるはずです。また、ケース・レポートを書くことは、執筆者にとって、絶好の「省察」の機会でもあり、被引用回数の指標のひとつであるジャーナル・インパクト・ファクター（JIF）を競う研究論文とは異なる価値があります。自治医科大学産婦人科の松原茂樹教授は、「原著と症例報告とに優劣はない。原著だろうが症例報告だろうが、臨床医の目から見て「有用なもの」「患者の役に立つもの」が良いものである（自治医科大学医学部同窓会報「研究・論文こぼれ話」その33）。」と述べています。また、群馬沖縄臨床研修センター長の徳田安春先生は、症例報告の書き方に関するご自身のブログで、「症例報告もりっぱな原著論文なのである。」と主張しています。

さて、ケース・レポート「でも」書くようにと言われたご経験もあるかと思いますが、ケース・レポートの執筆は、「でも」といわれるほど気安く取り組めるものではありません。ケース・レポートを書き始める前

には、医学ジャーナルに投稿するまでのバリアーを知り、それを乗り越えるために、次のような準備が必要です。書き終えてしまった後では、せっかくの努力と費やした時間が報われない事態にもなりかねません。

1. 先行論文の検索：自分にとって「珍しい症例」や「貴重な教訓」だったとしても、先行論文が既に存在していることがないわけではありません。類似症例の有無について、PubMedだけでなく、オープンアクセス学術誌要覧（Directory of Open Access Journals；DOAJ）やGoogle Scholarでも十分に時間をかけて調査します。

2. 投稿規定の確認：ターゲット・ジャーナルのウェブページ内の“Instructions for (to) Authors”または、“Author Guidelines”で、ケース・レポートを受け付けているか、投稿時点で支払う投稿料または掲載決定後に支払う掲載料の有無とその額、患者さんの同意書（Written informed consent）の必要性の有無、共著者数、字数、図表の数、引用可能文献数、レビュー日数などを確認します。

3. ターゲット・ジャーナルの選択：投稿先は、自身が会員である医学会の英文雑誌が第一候補と思います。今日では、ハゲタカ・ジャーナル（Predatory journal；捕食学術誌）といわれる「執筆者から論文投稿料や掲載料を得ることのみを目的とし、適切な査読を行わない、低品質のオープン・アクセス・ジャーナル」が多数存在しています。ジャーナル名やその出版社名を、ハゲタカ出版社のリストであるBeall's List of Predatory Publishersや、ホワイトリストとされるDOAJやQuality Open Access Market（QOAM）で調査します。また、PubMedで掲載論文を検索できるか

どうかも確認します。

参考として、内科分野で、一定の条件であれば、ケース・レポートを無料で投稿し掲載できる医学ジャーナルを紹介します。

Internal Medicine (日本内科学会)：300ドルの投稿料は、第1著者が日本内科学会会員であれば免除されますが、会員でない場合には投稿時に支払います、Abstractは100 wordsです。共著者数、本文の字数、図表の数に制限はありません。通常のプライバシーに配慮することで、患者同意書についての規定はありません。研究者が学術活動のために使う「マイナンバー」であるORCID (Open Researcher and Contributor ID) を登録しません。PubMed検索可能です。

Journal of General and Family Medicine (日本プライマリ・ケア連合学会)：第1著者と責任著者 (Corresponding author) の両者に1年以上の学会員歴があれば、1,250ドルの掲載料は免除されます。投稿するごとに、学会に連絡してdiscount codeを取得する必要があります。Abstractは100 words、本文は1,000 words、図表は最大2個、引用可能文献は10編までという規程があります。著者のORCIDを登録できます。患者同意書については、Photographic consentsが必要です。PubMed検索可能です。

BMJ Case Reports：自治医科大学附属さいたま医療センターは、BMJ Case ReportsのInstitutional Fellowになっています。Fellowship code (図書室で要確認) を登録することで、掲載料は免除されます。但し、論文採択後にOpen Accessを希望する場合には、400ポンドを支払います。原稿用の専用テンプレートがあるので、その項目に沿って書き進める必要があります。“Learning points/Take home message” と “Patient’s perspectives” も記載することに特徴があります。匿名化や患者同意書には、詳細な規程があるので、最新版の日本語版 (BMJ consent form) をダウンロードして使用します。また、Case Report (CARE) guidelinesのチェックリストをsupplement fileとして登録します。Summaryは150 words、本文は2,000 words以内、共著者数は4名までとなっています。著者のORCIDを登録できます。PubMed検索可能です。

Journal of General Internal Medicine (JGIM print)：Society of General Internal Medicineの会員 (International Full Membersとしての年会費が130ドルかかる) でなければ投稿できません。論文採択後にOpen Accessを希望する場合には、Article-processing chargeとして4,480ドルを支払います。Case ReportはClinical Vignetteと呼ばれ、2,000 wordsの制限があります。Abstractは不要です。匿名化や患者同意書には、詳細な規程があります。著者のORCIDを登録し

ません。PubMed検索可能です。JGIM webとは異なるジャーナルです。

JMA Journal：日本医師会が発行するオープン・アクセス・ジャーナルとして、2018年に創刊されました。投稿料、掲載料ともに無料です。“The JMA Journal is fully funded by the Japan Medical Association. There is no charge to submit to or publish in the journal.” との記載があります。本文は750 words、表は最大3個、図は最大4個、引用可能文献は10編までという規程があり、CAREチェックリストの活用が勧められています。患者同意書が必要です。著者のORCIDを登録しません。PubMed検索可能です。

Jichi Medical University Journal (自治医科大学紀要)：刷り上がり10ページ以内 (1ページで650 words相当) です。印刷版は白黒で、カラー刷りにする場合には実費を徴収されます。患者同意書の規定は、「著者の責任において、その匿名性保持と同意取得に留意する。」となっています。2003年以降の掲載論文を自治医科大学機関リポジトリで閲覧できますが、PubMed検索することはできません。著者のORCIDを登録しません。現在のところ、上記の5誌では論文ごとに付与されるインターネット・ドキュメントの識別子Digital Object Identifier (DOI) は付きません。

他に、PubMed検索が可能でケース・レポートを受け付けている医学ジャーナルとして、Case Reports in Medicine (400ドル)、Clinical Case Reports (1,100ドル) などもありますが、掲載決定後に括弧内の掲載料が必要です。

4. 患者同意書：自治医科大学精神科の小林聡幸教授は、「症例報告への患者同意必須化は臨床・研究を「貧困化」する (精神神経学雑誌2018; 120 (9) : 572-576)。」と述べていますが、昨今の趨勢として患者同意書は必須であろうと考えています。総合診療科では、入院時や外来受診時には患者同意書を準備できなかったときに、患者さんに署名してもらうために、ご自宅を訪ねたり、大宮駅で待ち合わせをしたり、電話や手紙で連絡したり等の苦労を経験しています。国際的に、汎用できる患者同意書がないため、投稿を予定している複数の医学ジャーナルに準拠した同意書への署名を予め得ておく必要もあります。総合診療科では、堀博志先生が、ケース・レポート用の「汎用版患者同意書」を試作していますが、患者同意書について妙案をお持ちの先生がおられましたら、是非、ご教示ください。

このように苦労して執筆したケース・レポートが、投稿料の負担がない医学ジャーナルの全てに受理されなかったときには、高い掲載料の支払いを覚悟して、海外のジャーナルに投稿する場合があります。日本に

は、BMJ Case Reportsのように何らかの教訓を含んだ症例を集積していくという目的のオープン・アクセス・ジャーナルがありません。そのため、日本全体で海外に支出される投稿料や掲載料は相当の額となり、研究費を圧迫していることもあり得ると思います。私は、日本医師会、日本内科学会、自治医科大学が中心となって、何らかの教訓を含んだケース・レポートを蓄積するためのオープン・アクセス・ジャーナルとして、“Internal Medicine Case Reports”, “JMA Case Reports”, “JMU Case Reports”などの創刊を提案します。Internal Medicineも、JIF（2009年現在、1.005）を毎年発表し、エディターはその数値を気にしています。Case Report部門を独立させることで、Internal Medicine自体のImpact Factorの上昇を期待でき、ケース・レポートに対する「厳しい」レビューとその回答に費やす投稿者の時間も節約できると考えます。これらの新しいオープン・アクセス・ジャーナルでは、リーズナブルな掲載料、PubMed検索、著者のORCID登録、DOI付与の条件を整え、投稿フォーマットや患者同意書も共通化し、何らかの教訓を含むケース・レポートで英語表現に誤りがなければ、積極的に受理する編集方針とします。今後、Shared decision making、個別化医療やArtificial Intelligence-based medicineが発展していくためにも、ケース・レポートを積極的に掲載することを目的としたオープン・アク

セス・ジャーナルは、医療界にとって大切な社会基盤のひとつではないかと考えています。

私たちは、ジャーナルへの掲載が叶ったケース・レポートを、次のようなウェブ・サイト（researchmap（自治医科大学教員業績データベースにリンクしています）、ORCID, Google Scholar, Academia edu., Mendeley, ResearchGate, Paper Shipなど）のクラウド上に積極的にセルフ・アーカイブしましょう。多くの研究者の目に触れる機会を増やすことができます。

結びに、当医療センターから、更に多くのケース・レポートが投稿され、医学ジャーナルに掲載されることを期待しています。

参考文献

1. 松原茂樹. 論文作成ABC：うまいケースレポート作成のコツ. 東京, 東京医学社, 2014
2. 見坂恒明. ケース・レポートでめざせ論文デビュー, 東京, 日本医事新報社, 2020

参考ウェブ・サイト

1. Inoue Method website (<https://www.chiikiiryō.jp/inoue-methods/inoue-methods/>)
帝京大学医学部地域医療学 井上和男

研究の成果

総合医学 1

総合診療科

【原著論文】

- 1) Taniguchi J, Sugawara H, Yamada H, Yoshida K, Kurihara I, Yoshida M, Ishii A, Fukuchi T, Fujimoto W : Adrenal crisis triggered by influenza A virus infection in a patient with untreated Sheehan syndrome. Clin Case Rep. 2020 ; 00 : 1-6. doi.org/10.1002/ccr3.3355
- 2) Hori H, Fukuch T, Sugawara H : Point-of-care ultrasound for prompt diagnosis and treatment monitoring of acute epiglottitis. Journal of General and Family Medicine 2020 ; doi : 10.1002/JGF2.373
- 3) Hori H, Fukuch T, Sugawara H : The effectiveness of transcutaneous cervical ultrasonography for diagnosing peritonsillar abscess in a patient complaining of sore throat. J Gen Fam Med 2020 ; doi : 10.1002/jgf2.364
- 4) Sueda K, Horiuchi M, Funakoshi H, Hiraoka E : Embolic Stroke Caused by Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia with Pulmonary Arteriovenous Malformation. J Gen Intern Med 2020 ; doi.org/10.1007/s11606-020-06126-0
- 5) Hori H, Ozeki Y, Kobashigawa T, Futsuhara K, Tanaka A, Watanabe E, Yabe H, Yago T, Fukuchi T, Sugawara H, Kotake S : Presence of Anti-transcriptional intermediary factor 1 gamma antibodies in a Dermatomyositis Patient with Retroperitoneal Cancer of Unknown Primary Site. Modern Rheumatology Case Reports 2020 ; doi : 10.1080/24725625.2020.1789302
- 6) Hori H, Fukuchi T, Sugawara H : Refractory aphthae in the epiglottis and supraglottic area due to Crohn's disease. J Gen Fam Med 2020 ;

doi : 10.1002/jgf2.356

- 7) Demitsu T, Jinbu Y, Yabe H, Yamada T, Kawase M, Kakurai M, Umemoto N, Tanaka A, Sugawara H : Verrucous lupus erythematosus localized to the oral mucosa and fingers rapidly progressed to systemic lupus erythematosus followed by fatal invasive aspergillosis. *Int J Dermatol* 2020 ; 10.1111/ijd.15016. doi : 10.1111/ijd.15016
- 8) Hori H, Kobashigawa T, Fukuchi T, Sugawara H : Giant cell arteritis manifested by chronic dry cough. *BMJ Case Reports* 2020 ; 13 (6) : e234734 (doi : 10.1136/bcr-2020-234734)
- 9) Hori H, Yoshihara H, Fukuchi T, Sugawara H : Importance of actively suspecting intracranial hypotension with diagnostic imaging prior to lumbar puncture. *J Gen Fam Med* 2020 ; doi : 10.1002/jgf2.329
- 10) Hori H, Fukuchi T, Sugawara H : At-a-glance diagnosis of postherpetic abdominal pseudohernia. *International Journal of Infectious Diseases* 95 : 371-372, 2020
- 11) Kurihara I, Kashiura M, Moriya T, Sugawara H : Sternal osteomyelitis and infective endocarditis after old trivial chest trauma in untreated diabetes mellitus : A case report. *J Gen Fam Med* 2020 ; 00 : 1-3 doi : 10.1002/jgf2.347
- 12) Hori H, Fukuchi T, Sugawara H : Fat ring sign and tumoral pseudocapsule sign of idiopathic mesenteric panniculitis complicated with protein-losing enteropathy. *J Gen Fam Med* 21 (4) : 157-158, 2020 ; doi : 10.1002/jgf2.318
- 13) Fukuchi T, Sugawara H : Were Additional Treatments Affecting the Pharmacokinetics Administered after Raltegravir Overdosing?. *Internal Medicine* 59 (10) : 1341, 2020 doi : 10.2169/internalmedicine.4246-19
- 14) Fukuchi T, Sugawara H : Praziquantel Could be the Appropriate Choice for Diagnostic Treatment of Schistosomiasis. *Internal Medicine* 59 (6) : 881, 2019

【学会発表】

- 1) Mochizuki M, Fukuchi T, Hatakeyama S, Sugawara H. : Immune reconstitution inflammatory syndrome associated with granulomatous *Pneumocystis pneumonia* co-infected with *Mycobacterium avium* in an

HIV-infected patient. *Journal of Infection and Public Health* 2020, 13 (2), 347 doi.org/10.1016/j.jiph.2020.01.113

- 2) Yukihiro N, Yamashita T, Adachi Y, Kawamura A, Hori H, Gunji Y, Fukuchi T, Sugawara H. : A Rare Case of Pyogenic Spondylitis Caused by *Aggregatibacter Actinomycetemcomitans*. *Journal of Infection and Public Health* 2020, 13 (2), 339-340 doi.org/10.1016/j.jiph.2020.01.092
- 3) Adachi M : A 10-year, single-center, retrospective, observational study of 11 patients infected with *Pasteurella multocida* in Japan. *Journal of Infection and Public Health* 2020, 13 (2), 373 https://doi.org/10.1016/j.jiph.2020.01.183
- 4) 菅原 斉, 齊藤 開, 渡辺珠美, 中村香代子, 石井 彰, 福地貴彦 : 臨床検査データベースの二次利用による極端外れ高値と72時間転帰に関する研究. 第57回埼玉県医学会総会, さいたま, 2020年2月23日
- 5) 吉原花子, 高嶋紗衣, 堀 博志, 渡辺珠美, 菅原 斉 : 前立腺癌多発転移に感染性動脈瘤を併発したが, 高度急性期病院からすみやかに在宅看取りへ退院調整した高齢者の1例. 第71回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2020年3月7日 (演題番号32)

■ 循環器内科

・2020年5月～2020年10月 及び前回未掲載分

【原著論文】

- 1) Yoshida H, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Jinnouchi H, Wada H, Moriya T, Fujita H : Comparison of in-hospital death following ST-elevation myocardial infarction between secondary emergency and tertiary emergency. *Cardiovascular intervention and therapeutics* ; 10.1007/s12928-020-00698-8, 2020.
- 2) Yamamoto K, Sakakura K, Tsukui T, Seguchi M, Taniguchi Y, Wada H, Momomura S, Fujita H : Factors associated with antegrade true-sub-true phenomenon in percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion. *PloS one* 15 : e0232158, 2020.
- 3) Yamamoto K, Sakakura K, Akashi N, Watanabe Y, Seguchi M, Taniguchi Y, Wada H, Momomura S, Fujita H : Association of slow flow with

- clinical factors in intravascular ultrasound-guided percutaneous coronary intervention for patients with left main trunk-acute myocardial infarction. *J Cardiol* 75 : 53-9, 2020.
- 4) Tsukui T, Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Association between the door-to-balloon time and mid-term clinical outcomes in patients with ST-segment elevation myocardial infarction. *Intern Med* 59 : 1597-603, 2020.
 - 5) Seguchi M, Sakakura K, Tsukui T, Yamamoto K, Taniguchi Y, Wada H, Momomura S, Fujita H : Determinants of In-Hospital Death Among the Very Elderly with Acute Myocardial Infarction. *International heart journal* ; 10.1536/ihj.20-165, 2020.
 - 6) Sawano S, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Further Validation of a Novel Acute Myocardial Infarction Risk Stratification (nARS) System for Patients with Acute Myocardial Infarction. *International heart journal* 61 : 463-9, 2020.
 - 7) Sawano S, Sakakura K, Tsurumaki Y, Fujita H : Entrapment of a completely radiolucent fragment of balloon catheter : should we try to retrieve or knock the invisible fragment? *Cardiovascular intervention and therapeutics* ; 10.1007/s12928-020-00683-1, 2020.
 - 8) Sawano S, Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Tsukui T, Seguchi M, Jinnouchi H, Wada H, Fujita H : Outcomes of Patients With Acute Myocardial Infarction Who Recovered from Severe In-Hospital Complications. *Am J Cardiol* ; 10.1016/j.amjcard.2020.08.031, 2020.
 - 9) Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Wada H, Momomura S, Fujita H : Association of excessive speed reduction with clinical factors during rotational atherectomy. *Cardiovascular revascularization medicine : including molecular interventions* 21 : 314-9, 2020.
 - 10) Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Comparison of complications with a 1.25-mm versus a 1.5-mm burr for severely calcified lesions that could not be crossed by an intravascular ultrasound catheter. *Cardiovascular intervention and therapeutics* 35 : 227-33, 2020.
 - 11) Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Comparison of the incidence of slow flow after rotational atherectomy with IVUS-crossable versus IVUS-uncrossable calcified lesions. *Sci Rep* 10 : 11362, 2020.
 - 12) Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Tsukui T, Jinnouchi H, Fujita H : Excessive rotational speed may be associated with the transection of guidewires in rotational atherectomy. *Am J Cardiol*. 2020.
 - 13) Ohashi J, Sakakura K, Sasaki W, Taniguchi Y, Kani K, Yamamoto K, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Usefulness of 500-m walk electrocardiogram test on clinical outcomes in patients with ST-segment elevation myocardial infarction. *Heart Vessels* ; 10.1007/s00380-020-01667-0, 2020.
 - 14) Mukai Y, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Association of less-contrast media with clinical factors in elective percutaneous coronary intervention. *Heart Vessels* 35 : 143-52, 2020.
 - 15) Kubota M, Sakakura K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Mid-term Clinical Outcomes of Immediate Protamine Use Following Elective Percutaneous Coronary Interventions. *International heart journal* ; 10.1536/ihj.20-126, 2020.
 - 16) Hirai K, Kawasaki T, Sakakura K, Soejima T, Kajiyama K, Fukami Y, Haraguchi K, Okonogi T, Fukuoka R, Orita Y, Umeji K, Koga H, Yamabe H : Determinants of insufficient improvement in fractional flow reserve following percutaneous coronary intervention. *Heart Vessels* ; 10.1007/s00380-020-01645-6, 2020.
 - 17) Hasegawa H, Taniguchi Y, Sakakura K, Yamaguchi A, Fujita H : Possible thrombus formation with huge high-echoic image in the right atrium following rapid ventricular pacing during transcatheter aortic valve implantation. *Cardiovascular intervention and therapeutics* ; 10.1007/s12928-020-00682-2, 2020.
 - 18) Hasegawa H, Sakakura K, Hamamoto K, Yamamoto K, Taniguchi Y, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H :

Determinants of greater peak radiation skin dose in contemporary percutaneous coronary interventions. *Cardiovascular Revascularization Medicine* 21 : 6-11, 2020.

- 19) Haraguchi Y, Sakakura K, Fujita H : Authors' Reply : How to increase the rate of optimal medical therapy following acute myocardial infarction. *Intern Med* 59 : 2207, 2020.
- 20) Asada S, Sakakura K, Yamamoto K, Momomura S, Fujita H : An alternative strategy for coronary artery lesions with an extra-large reference diameter using a perfusion balloon. *Postepy w kardiologii interwencyjnej = Advances in interventional cardiology* 16 : 219-20, 2020.
- 21) Asada S, Sakakura K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Tsukui T, Seguchi M, Wada H, Momomura S, Fujita H : Association of the long fluoroscopy time with factors in contemporary primary percutaneous coronary interventions. *PloS one* 15 : e0237362, 2020.

【学会発表】

- 1) 藤田英雄, 的場哲哉, 中山雅晴, 清末有宏, 興梠貴英, 宮本恵宏, 永井良三 : Multi-institutional Analysis of Irradiation Dose for Stratified Management of Radiation Exposure Using CLIDAS (The CLinical Deep Data Accumulation System) 第84回日本循環器学会学術集会, 2020年8月1日, Web開催.
- 2) Ibe T, Wada H, Sakakura K, Ugata U, Maki H, Yamamoto K, Jinnouchi H, Seguchi M, Taniguchi Y, Momomura S, Fujita H. "Combined pre-and post-capillary pulmonary hypertension defined by new criteria is worse prognosis group in patients with heart failure." Best Poster Award. Annual meeting of European Society of Cardiology, August 30th, 2020, Amsterdam, Netherland.
- 3) 伊部達郎, 和田浩, 坂倉建一, 宇賀田裕介, 牧尚孝, 津久井卓伯, 山本慶, 瀬口優, 谷口陽介, 百村伸一, 藤田英雄 : 「慢性活動性EBウイルス感染症を伴う肺高血圧症の一例」第5回日本肺高血圧学会, 2020年9月26日, 東京都.
- 4) Tajima A, Ibe T, Wada H, Sakakura K, Ugata U, Maki H, Yamamoto K, Jinnouchi H, Seguchi M, Taniguchi Y, Momomura S, Fujita H : "A

case of heart failure with reduced ejection fraction complicated with paraganglioma." The 24th annual meeting of Japanese Heart Failure Society, October 16th, 2020, Yokohama, Japan.

- 5) 陣内博之, 坂倉建一, 藤田英雄, Renu Virmani. 分岐入口部遅発性ステント血栓症の病理, マイクロCT所見. 第56回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会, 2020年7月24日, 東京都.
- 6) Akashi N, Umemoto T, Yamada H, Fujiwara T, Yamamoto K, Taniguchi Y, Sakakura K, Wada H, Momomura S, Fujita H : "DPP-4 Inhibitor Teneligliptin Improves. 2020年6月14日

【研究会・その他】

- 1) 牧 尚孝 : 「肺高血圧治療最前線～東大病院での実診療をふまえて」 Fukui PAH Forum2020, 2020年9月29日, WEBセミナー
- 2) 和田 浩 : 「トランスフォーマーサイレチン型心アミロイドーシスの診断と治療について～最新の話～」循環器疾患地域連携フォーラム, 2020年9月17日, WEBセミナー
- 3) 山本 慶 : 「心房細動を合併したPCI後の患者へのアプローチ～AFIREを臨床に生かす～」さいたまCAD, 2020年9月15日, WEBセミナー
- 4) 陣内博行 : 「Pre Clinical Studyから見たDESの特性」第3回Abbot WEBINAR改めて考えるDESの選択, 2020年9月9日, WEBセミナー
- 5) 藤田英雄 : 「これからの心不全にどう取り組むべきか～地域連携とARNIの可能性を踏まえて～」エンレストWeek, 2020年9月3日, WEBセミナー

■ 消化器内科

【原著論文】

- 1) Mashima H, Takahashi K, Sekine M, Matsumoto S, Asano T, Uehara T, Fujiwara J, Otake H, Ishii T, Yoshikawa S, Miura T, Koito Y, Kashima H, Matsumoto K, Ohnishi H. The Role of Calcium-Binding Protein S100g (CalbindinD-9K) and Annexin A10 in Acute Pancreatitis. *Biochem Biophys Res Commun.* 526 : 692-698, 2020.
- 2) Matsumoto S, Mashima H. The challenge of fistula closure in Crohn's disease : an endoscopic technique for closure of a fistula. *Endoscopy.* 2020 Jun 19. doi : 10.1055/a-1173-8540.
- 3) Matsumoto S, Matsumoto K, Takaya H, Otake H, Mashima H. Efficacy of Ustekinumab Against

Spondyloarthritis Associated with Crohn's Disease : A Case Report and Review of the Literature. Open Access Rheumatol. 12 : 133-137, 2020.

- 4) Sekine M, Fujiwara J, Mashima H. A novel method of triple stenting in patients with malignant hilar biliary obstruction : triple stenting abreast method. Endoscopy. 52 : E295-E296, 2020.
- 5) Akahane K, Shirai K, Wakatsuki M, Ogawa K, Minato K, Hamamoto K, Takahashi S, Suzuki K, Takahashi J, Rikiyama T, Matsumoto K, Mashima H. Severe esophageal stenosis in a patient with metastatic colon cancer following palliative radiotherapy, ramucirumab, and chemotherapy. Clin Case Rep. 8 : 919-922, 2020.
- 6) 宮谷博幸：機能的消化器障害（主に膵・胆道に関連した腹痛）について. 大宮医師会報773 ; 414-419, 2020.
- 7) 小島 柁、賀嶋ひとみ、石井剛弘、上原健志、浅野岳晴、松本 吏弘、宮谷博幸、眞嶋浩聡. Roux-en Y再建後輸入脚盲端異物の穿通により肝膿瘍を来した一例. Progress of Digestive Endoscopy 96 ; 186-188, 2020.

【学会発表】

- 1) 小島 柁、田中 亨、山田茂樹、秋元真穂、蛭田昌宏、土橋 洋、三浦孝也、松本吏弘、眞嶋浩聡：幽門腺腫内に胃底腺型腺癌の合併が疑われた1例. 第109回日本病理学会総会, 2020.7.1-31 (Web)
- 2) 関根匡成、大西洋英、眞嶋浩聡：早期慢性膵炎の診断の確立を目指した超音波内視鏡 (EUS) 像と切除膵病理組織像の比較検討. 第106回日本消化器病学会総会, Web, 2020.8.11-13 (パネルディスカッション)
- 3) 松本吏弘、森野美奈、松本圭太、賀嶋ひとみ、小糸雄大、三浦孝也、高橋裕子、坪井瑠美子、石井剛弘、吉川修平、大竹はるか、藤原純一、関根匡成、上原健志、浅野岳晴、宮谷博幸、眞嶋浩聡：クローン病に対するUstekinumabの短期・長期治療成績：抗TNF・製剤との比較. 第106回日本消化器病学会総会, 2020年8月11-13日, 広島 (誌上発表)
- 4) 松本吏弘、松本圭太、森野美奈、賀嶋ひとみ、小糸雄大、高橋裕子、三浦孝也、石井剛弘、坪井瑠美子、吉川修平、藤原純一、上原健志、関根匡成、浅野岳晴、宮谷博幸、眞嶋浩聡：当科における潰瘍性大腸炎に対するVedolizumabの短期治療成績. 第106回日本消化器病学会総会, 2020年8月11-13日, 広島 (誌上発表)
- 5) 賀嶋ひとみ、松本吏弘、森野美奈、松本圭太、小糸雄大、三浦孝也、高橋裕子、坪井瑠美子、石井剛弘、吉川修平、大竹はるか、藤原純一、関根匡成、上原健志、浅野岳晴、宮谷博幸、眞嶋浩聡：Adalimumabによる薬剤誘発性ループスをきたし、妊娠中再燃しGolimumabを導入した潰瘍性大腸炎の1例. 第106回日本消化器病学会総会, 2020年8月11-13日, 広島 (誌上発表)
- 6) 関根匡成、藤原純一、眞嶋浩聡：高齢者における総胆管結石治療前のEUS 評価の有用性の検討. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 京都&Web, 2020.9.2-3 (パネルディスカッション高齢者に対する胆膵診療のマネジメント)
- 7) 賀嶋ひとみ、松本吏弘、森野美奈、松本圭太、小糸雄大、三浦孝也、高橋裕子、坪井瑠美子、石井剛弘、吉川修平、大竹はるか、藤原純一、関根匡成、上原健志、浅野岳晴、宮谷博幸、眞嶋浩聡：潰瘍性大腸炎に対する抗TNF α 製剤の短期・長期治療成績：Infliximab vs Adalimumab vs Golimumab. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020年9月2-3日, 京都 (誌上発表)
- 8) 松本吏弘、森野美奈、松本圭太、賀嶋ひとみ、小糸雄大、三浦孝也、高橋裕子、坪井瑠美子、石井剛弘、吉川修平、大竹はるか、藤原純一、関根匡成、上原健志、浅野岳晴、宮谷博幸、眞嶋浩聡：潰瘍性大腸炎に対する抗TNF α 製剤の短期・長期治療成績：Infliximab vs Adalimumab vs Golimumab. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020年9月2-3日, 京都 (誌上発表)
- 9) 小糸雄大、松本吏弘、森野美奈、松本圭太、賀嶋ひとみ、三浦孝也、高橋裕子、坪井瑠美子、石井剛弘、吉川修平、大竹はるか、藤原純一、関根匡成、上原健志、浅野岳晴、宮谷博幸、眞嶋浩聡：当科におけるメサラジンアレルギー症例と減感作療法の試み. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020年9月2-3日, 京都 (誌上発表)
- 10) 浅野岳晴、吉川修平、宮谷博幸：脂質異常症を伴う原発性胆汁性胆管炎に対するペマフィブラートの有用性, JDDW 2020, 2020年11月5-8日, 神戸 (誌上発表)
- 11) 中野 優、賀嶋ひとみ、森野美奈、松本圭太、小糸雄大、三浦孝也、高橋裕子、坪井瑠美子、石井剛弘、吉川修平、大竹はるか、藤原純一、関根匡成、上原健志、浅野岳晴、松本吏弘、宮谷博幸、眞嶋浩聡：大腸EMR後に肝膿瘍を来した

一例. 第110回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2020年5月30-31日, 東京 (Web)

- 12) 田中健丈, 浅野岳晴, 森野美奈, 松本圭太, 賀嶋ひとみ, 小糸雄大, 三浦孝也, 高橋裕子, 石井剛弘, 坪井瑠美子, 大竹はるか, 吉川修平, 藤原純一, 関根匡成, 上原健志, 松本吏弘, 宮谷博幸, 眞嶋浩聡, 杉山洋平, 佐藤洋明: 妊娠中より肝障害を認め児に肝不全をきたした, 産褥期に確定診断された成人Still病の一例. 第360回日本消化器病学会関東支部例会, 2020年8月, 東京 (Web)

【その他】

- 1) 宮谷博幸: 抗血栓薬と上部消化管出血. 大宮内科医会共催Web講演会. 2020年7月28日, さいたま市.
- 2) 宮谷博幸: 消化器疾患と漢方治療. 地域医療連携講演会 大宮医師会漢方講演会. 2020年9月10日, さいたま市
- 3) 松本吏弘: Ustekinumabのベストユースを考える. Crohn's Disease Web Seminar. 2020年10月15日 (Web講演)
- 4) 松本吏弘: 潰瘍性大腸炎治療のトレンドと腸管外合併症. 自己免疫疾患 診療連携フォーラム. 2020年10月29日 (Web講演)
- 5) 浅野岳晴: 当院のTACE不適症例に対する治療戦略, 2020年7月27日, 肝癌Expert Meeting, さいたま (web講演)
- 6) 浅野岳晴: 当院におけるレンバチニブ副作用マネジメントについて, 2020年9月28日, Toda Kawaguchi Hepatocellular Carcinoma Conference, 川口 (web講演)
- 7) 浅野岳晴: TACE不応, 不適に対するレンビマ導入の臨床経験, 2020年10月7日, Saitama HCC Conference, 川越 (web講演)
- 8) 浅野岳晴: 肝癌薬物療法をTACEから考える～長期生存を目指して～, 2020年10月13日, 肝癌 Web Conference in Saitama, 越谷 (web講演)

【著書】

- 1) 宮谷博幸: 慢性下痢症【消化管症候群 (第3版) - その他の消化管疾患を含めて -】空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸 (下) 機能障害、運動異常. 日本臨床別冊消化管症候群IV 2020; 406-410.

■ 呼吸器内科

【学会発表】

- 1) 大柳文義, 水品佳子, 野村基子, 椎原淳, 太田洋充, 山口泰弘: 気管支内視鏡生検検体による Oncomine Dx Target Test multi CDx system 遺伝子診断の検討. 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2020年6月26-27日, 旭川

【著者 総説】

- 1) 山口泰弘: 【ポリファーマシー対策の実践法】呼吸器疾患におけるポリファーマシーとその対策. 老年内科 1 (2) 132-140, 2020
- 2) 山口泰弘: 【高齢者の肺炎-日常診療に役立つ最新知見-】加齢による呼吸器の変化. 日本臨床 78 (4): 558-563, 2020
- 3) 山口泰弘: 睡眠時無呼吸症候群診療の最前線 睡眠関連低酸素血症障害. 日本医師会雑誌 149 (2): 256, 2020
- 4) 山口泰弘, 後藤友子: アドバンス・ケア・プランニング (ACP) Q&A 地域包括ケアシステムを活かすACP実践と組織づくり 受講者の行動変容を促す教育戦略 実臨床で専門職が活動し、患者の「生ききる」を支えるために (Q&A) Geriatric Medicine 58 (7): 655-658, 2020

■ リウマチ膠原病科

2020.5-2020.10

【原著論文】

- 1) Kikuchi N, Watanabe E, Nagao M, Yoshizawa S, Kobashigawa T, and Hagiwara N.: Acute myocarditis complicating systemic lupus erythematosus: detection and evolution of transmural spiral late gadolinium enhancement on cardiac magnetic resonance imaging. CIRCCVIM (Circulation: Cardiovascular Imaging) /2020/011319R1.
- 2) Hori H, Ozeki Y, Kobashigawa T, Futsuhara K, Tanaka A, Watanabe E, Yabe H, Yago T, Fukuchi T, Sugawara H and Kotake S: Presence of anti-transcriptional intermediary factor-1 gamma antibodies in a dermatomyositis patient with retroperitoneal cancer of unknown primary site, Modern Rheumatology Case Reports, DOI: 10.1080/24725625.2020.1789302
- 3) Demitsu T, Jinbu Y, Yabe H, Yamada T,

Kawase M, Kakurai M, Umemoto N, Tanaka A, Sugawara H : Verrucous lupus erythematosus localized to the oral mucosa and fingers rapidly progressed to systemic lupus erythematosus followed by fatal invasive aspergillosis. *Int J Dermatol*. Doi : 10.1111/ijd.15016. 2020 Jun 23.

【著書・総説】

- 1) 南家由紀、八子徹、小橋川剛、矢部寛樹、渡邊萌理、小竹茂：解説 脊椎関節炎とインターロイキン17. *リウマチ科*62 (3) P299-304, 2019.

【学会発表】

- 1) 長尾菜摘、小橋川剛、矢部寛樹、八子徹、南家由紀、小竹茂：若年女性の高安動脈炎に対して早期よりTCZを導入した2症例. 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会 2020年8月17日-9月15日 京都市 (WEB開催)
- 2) 小橋川剛、南家由紀、八子徹、小竹茂：関節リウマチの家族歴を持つ単関節滑膜炎の1例. P3-098 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会 2020年8月17日-9月15日 京都市 (WEB開催)
- 3) 矢部寛樹、渡邊萌理、小橋川剛、八子徹、南家由紀、小竹茂：乾癬性関節炎における生物学的製剤治療の検討. P1-128 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会 2020年8月17日-9月15日 京都市 (WEB開催)
- 4) 小橋川剛、長尾菜摘、八子徹、矢部寛樹、南家由紀、小竹茂：乾癬性関節炎の関節炎に対してIFxからADAへSwitchしコントロールを得た1例. 日本脊椎関節炎学会第30回学術集会 2020年9月26日 京都市 (WEB開催)
- 5) Nagao N, Kobashigawa T, Yabe H, Yago T, Nanke Y and Shigeru Kotake S. Division of Rheumatology, 1st Department of Comprehensive Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University : Two Cases of Young Female Takayasu's Arteritis Using Tocilizumab in the Earliest Term. P685 22nd Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology (APLAR) Virtual Congress - 24-29 October 2020.
- 6) Kuwano K 1), Kobashigawa T 2), Nanke Y 2), Yabe H 2), Yago T 2) and Kotake S 2). 1) Division of General Medicine, 1st Department of Comprehensive Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University, 2) Division of Rheumatology, 1st Department of

Comprehensive Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University : Treatment with polymyositis of multiple dislocations of distal interphalangeal joints associated with interstitial pneumonia, Sjogren's syndrome, and positive autoantibodies. P447 22nd Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology (APLAR) Virtual Congress - 24-29 October 2020.

【研究会発表】

- 1) 南家由紀：講演 乾癬性関節炎の病態におけるIL-17とIL-23の役割～関節リウマチとの違い～. さいたま乾癬研究会 2020年10月15日 さいたま市 (WEB開催)
- 2) 小橋川剛：講演 炎症性腸疾患に伴う関節炎の診断・治療. オンライン講演会 自己免疫疾患 診療連携フォーラム 2020年10月29日 さいたま市

■ 放射線科

前回未掲載～2020年10月

【原著論文】

- 1) Koyanagawa K, Kobayashi Y, Aikawa T, Takeda A, Shiraiishi H, Tsuneta S, Oyama-Manabe N, Iwano H, Nagai T, Anzai T : Myocardial T1-mapping and Extracellular Volume Quantification in Patients and Putative Carriers of Muscular Dystrophy : Early Experience. *Magn Reson Med Sci*. 2020 Sep 7. doi : 10.2463/mrms.bc.2020-0069.
- 2) Tamaki M, Nakasone H, Aikawa T, Nakamura Y, Kawamura M, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Misaki Y, Yoshimura K, Matsumi S, Gomyo A, Tanihara A, Kusuda M, Akahoshi Y, Kimura SI, Kako S, Oyama-Manabe N, Kanda Y : Pre-HCT lung computed tomography as an alternative to PFT during the COVID-19 Pandemic. *Biol Blood Marrow Transplant*. 2020 Aug 26 : S1083-8791 (20) 30540-1. doi : 10.1016/j.bbmt.2020.08.025. Online ahead of print. PMID : 32860909
- 3) Tsuneta S, Oyama-Manabe N, Kameda H, Harada T, Kato F, Smit EJ, Prokop M, Kudo K : Improvement of image quality on low-dose dynamic myocardial perfusion computed tomography with a novel 4-dimensional similarity filter. *Medicine (Baltimore)*. 2020 Jun 26 ; 99

- (26) : e20804. doi : 10.1097/MD.00000000000020804. PMID : 32590765
- 4) Kato Y, Nagai T, Oyama-Manabe N, Tsuneta S, Nakai M, Kobayashi Y, Komoriyama H, Omote K, Tsujinaga S, Sato T, Konishi T, Kamiya K, Iwano H, Anzai T : Usefulness of Liver Magnetic Resonance Elastography for Estimating Right-Atrial Pressure in Heart Failure Patients. *JACC Cardiovasc Imaging*. 2020 Jun 16 : S1936-878X (20) 30316-8. doi : 10.1016/j.jcmg.2020.03.015. Online ahead of print. PMID : 32563645
- 5) Tsuneta S, Abo D, Oyama-Manabe N, Miyazaki C, Yoshino Y, Morita R, Soyama T, Kudo K : Visualization of Quantitative Flow Reduction with 4D-flow Magnetic Resonance Imaging in a Patient with Pelvic Arteriovenous Malformation After Transcatheter Arterial Embolization. *Cardiovasc Intervent Radiol*. 2020 Jun 11. doi : 10.1007/s00270-020-02545-y. Online ahead of print.
- 6) Sato T, Konishi T, Wakasa S, Oyama-Manabe N, Anzai T : Phosphoglyceride crystal deposition disease as a rare tumour after cardiac surgery. *Eur Heart J*. 2020 Jul 14 ; 41 (27) : 2596. doi : 10.1093/eurheartj/ehaa289. PMID : 32337543
- 7) Manabe O, Oyama-Manabe N, Tamaki N : Positron emission tomography/MRI for cardiac diseases assessment. *Br J Radiol*. 2020 Sep 1 ; 93 (1113) : 20190836. doi : 10.1259/bjr.20190836. PMID : 32023123 Review.
- 8) Manabe O, Koyanagawa K, Hirata K, Oyama-Manabe N, Ohira H, Aikawa T, Furuya S, Naya M, Tsujino I, Tomiyama Y, Otaki Y, Anzai T, Tamaki N : Prognostic Value of 18F-FDG PET Using Texture Analysis in Cardiac Sarcoidosis. *JACC Cardiovasc Imaging*. 2020 Apr ; 13 (4) : 1096-1097. doi : 10.1016/j.jcmg.2019.11.021. PMID : 31954654
- 9) Tsuchiya J, Moriyama S, Manabe O, Amemiya M, Yokoyama K, Kimura K, Fujii Y, Tateishi U : A rare case of right ventricular metastasis in renal cell carcinoma detected by thallium-201 scintigraphy. *J Nucl Cardiol*. 2020 in press.
- 10) Manabe O, Naya M : Potential of 18F-FDG PET to evaluate the cardiocerebral interaction. *J Nucl Cardiol*. 2020 Jul 31. doi : 10.1007/s12350-020-02302-1. Online ahead of print.
- 11) Miura S, Manabe O, Naya M, Ando A, Usami A, Miyazaki C, Takanori O, Yamashita T : Multimodality evaluation of Takotsubo cardiomyopathy in an isolated single coronary artery anomaly. *J Nucl Cardiol*. 2020 Aug 6. doi : 10.1007/s12350-020-02312-z. Online ahead of print.
- 12) Oike T, Ohno T, Shirai K : Inguinal hernia in a patient with prostate cancer to be treated with photon radiotherapy. *Clin Case Reports*, 2020, In press.
- 13) Shirai K, Suzuki M, Akahane K, Takahashi Y, Kawahara M, Yamada E, Wakatsuki M, Ogawa K, Takahashi S, Minato K, Hamamoto K, Saito K, Oshima M, Konishi T, Nakamura Y, Washino S, and Miyagawa T : Dose-volume histogram-based predictors for hematuria and rectal hemorrhage in patients receiving radiotherapy after radical prostatectomy. *In Vivo*. 2020 ; 34 (3) : 1289-1295.
- 14) Akahane K, Shirai K, Wakatsuki M, Ogawa K, Minato K, Hamamoto K, Takahashi S, Suzuki K, Takahashi J, Rikiyama T, Matsumoto K, Mashima H : Severe esophageal stenosis in a patient with metastatic colon cancer following palliative radiotherapy, ramucirumab, and chemotherapy. *Clin Case Rep*. 2020 ; 8 (5) : 919-922.
- 15) Osu N, Kobayashi D, Shirai K, Musha A, Sato H, Hirota Y, Shibata A, Oike T, and Ohno T : Relative Biological Effectiveness of Carbon Ions for Head-and-Neck Squamous Cell Carcinomas According to Human Papillomavirus Status. *Journal of Personalized Medicine*. 2020 ; 10 (3) : E71.
- 16) Oike T, Adachi A, Shirai K, and Ohno T : Unresectable cutaneous metastatic tumor in the arm that underwent complete remission after radiotherapy. *Clinical Case Reports*, 2020. In press.

【学会発表】

- 1) 高橋侑大 : 放射線治療計画の自動化の現状と未来 : テンプレート機能による治療計画自動化への試み - 前立腺VMAT - . 第80回放射線治療部会、第76回日本放射線技術学会総会、JRC2020、2020年4月9 - 12日、神奈川

【その他】

- 1) Katsuyuki Shirai : Improvement of radiation

- therapy for locally advanced NSCLC. China and Japan Collaborative Scientific Exchange Meeting, 2020年5月9日, Webカンファレンス
- 2) 真鍋徳子: 心筋虚血を評価する心臓MRI. 日本循環器学会, 2020年7月27日-8月2日, Webカンファレンス
 - 3) Noriko Oyama-Manabe: Cardiomyopathies. Society of cardiovascular computed tomography annual meeting, 2020年7月16-19日, Webカンファレンス
 - 4) 真鍋徳子: もう時間がかかるなんて言わせない心臓MRI. Philips Webセミナー, 2020年9月3日, Webカンファレンス
 - 5) 真鍋徳子: 心臓MRIの基礎から最前線. エーザイWebセミナー, 2020年9月3日, Webカンファレンス

【著者 総説】

- 1) 真鍋徳子: 各論 循環器疾患 心筋疾患 画像診断による非虚血性心筋症, HFpEFの鑑別. Hospitalist, vol.8 No.2 前田恵理子 石山貴章 メディカルサイエンスインターナショナル, 2020, 287-291
- 2) 真鍋治、小梁川和宏、納谷昌直、相川忠夫、平田健司、小林健太郎、古家翔、真鍋徳子、立石宇貴秀: Q&Aでまとめる! 予後予測・治療効果予測の画像検査, 胸部(呼吸器・循環器・乳腺), 心臓サルコイドーシス疑い患者の予後を予測する画像検査法は何か?. 臨床放射線臨時増刊号65(8), 825-830, 2020
- 3) 平田健司、真鍋治、真鍋徳子: 画像診断におけるAI: texture解析とdeep learningを中心に. 循環器内科 88 (1), 48-54, 2020.
- 4) 白井克幸、赤羽佳子、川原正寛、高橋侑大: 高精度化する放射線治療. 杏林医会誌51 (2), 123-126, 2020.
- 5) 真鍋徳子、常田慧徳: Value based medicine時代の心臓CT. 画像診断 VOL.40 No.12: 1175-1182, 2020
- 6) 綾部佑介: ~MRCP~FASEの原理とアーチファクト対策. 第1回関東Pianissiom研究会. 2020年8月29日、Web開催

■ 小児科

【原著論文】(英論文および和論文)

- 1) 菅原大輔、桑田知之、高木健次郎: 妊娠糖尿病母体児の合併症予測因子としての妊娠後期のグリコ

- アルブミン/HbA1c比の有用性. 糖尿病と妊娠 20 (2): 56-58, 2020
- 2) 永井康平、高橋幸利、池上真理子: 定期的メチルプレドニゾロンパルス療法が認知機能予後に有効であったと思われるLandau-Kleffner症候群の1例. 脳と発達52 (5): 332-3, 2020
 - 3) Makita E, Kuroda S, Sato H, Itabashi K, Kawano A, Matsuura M, Sugiyama Y, Sugawara D, Maruyama A, Ichihashi K: Comparison of methemoglobin levels in food protein-induced enterocolitis syndrome and other gastrointestinal diseases in neonates. Allergol Immunopathol 48: 490-495, 2020

【学会発表】

- 1) 永井康平、高橋幸利、井田久仁子、谷藤幸子、福岡正隆、小池敬義、大松泰生、美根潤、大谷英之、池田浩子、重松秀夫、今井克美: 定期的メチルプレドニゾロンパルス療法が認知機能予後に有効であったと思われるLandau-Kleffner症候群の1例. 第62回日本小児神経学会学術集会 Web開催、2020年8月18-20日
- 2) 松浦未紗、牧田英士、菅原大輔、平久保由香、市橋光: 川崎病軽症例に対する層別化治療の試み. 第123回日本小児科学会学術集会、神戸、Web開催併用、2020年8月21-23日
- 3) 牧田英士、黒田早恵、板橋佳恵、菅原大輔、佐藤洋明、市橋光: Two neonatal cases of food protein-induced enterocolitis syndrome with pale stool and transient biliary dilatation. JSA/WAO XXVII World Allergy Congress (WAC 2020) conjoint with the APAPARI 2020 Congress、Web開催、2020年9月17日-10月20日
- 4) 牧田英士、黒田早恵、板橋佳恵、菅原大輔、市橋光: 固形食物Food protein-induced enterocolitis syndrome (FPIES) 診断におけるTARC測定の有用性. 第57回日本小児アレルギー学会学術大会、Web開催、2020年10月31日-11月13日
- 5) 牧田英士、黒田早恵、板橋佳恵、菅原大輔、市橋光: 少量経口負荷試験による保護者の不安軽減効果の検討. 第57回日本小児アレルギー学会学術大会、Web開催、2020年10月31日-11月13日

【その他】

- 1) 市橋光: ERで有用なエコー検査. 第123回日本小児科学会学術集会分野別シンポジウム、神戸、Web開催併用、2020年8月21-23日

【著者 総説】

- 1) 河野惇子、丸山麻美、市橋光：新生児の脊髄超音波検査. 神経超音波医学33 (2) : 33-35, 2020

■ 病理診断科

【原著論文】

- 1) Sugimoto K, Moriyasu F, Oshiro H, Takeuchi H, Abe M, Yoshimasu Y, Kasai Y, Sakamaki K, Hara T, Itoi T. The Role of Multiparametric US of the Liver for the Evaluation of Nonalcoholic Steatohepatitis. *Radiology*. 2020 ; 296 (3) : 532-540
- 2) Okudela K, Woo T, Saigusa Y, Arai H, Matsumura M, Mitsui H, Sugiyama M, Sekiya M, Ishikawa Y, Oshiro H, Kameda Y, Ohashi K. A method to obtain reproducible Ki-67 indexes in lung adenocarcinoma. *Histopathology*. 2020 Aug 19. doi : 10.1111/his.14234. Online ahead of print
- 3) Kawaguchi S, Sato K, Oshiro H, Imadome KI, Kanda Y : Recurrent Enteritis Associated with Epstein-Barr Virus-positive CD4+ T-cell Lymphoproliferative Disorder after Autologous Stem Cell Transplantation. *Intern Med*. 2020 ; 59 (20) : 2565-2569
- 4) Aoki Y, Oshiro H, Yoshida A, Morishima K, Miki A, Sasanuma H, Sakuma Y, Lefor AK, Sata N. Pancreaticoduodenectomy for a primary duodenal capicua transcriptional repressor (CIC)-rearranged sarcoma with severe bleeding : a case report. *BMC Gastroenterol*. 2020 ; 20 (1) : 105

【学会発表】

- 1) 秋元真穂、蛭田昌宏、土橋洋、山田茂樹、田中亨：進行食道癌に対する放射線・化学治療後10年余に発生した縦隔リンパ管肉腫の1剖検例 An case of lymphangiosarcoma, 11 years after chemoradiation therapy to the esophageal cancer. 第109回日本病理学会総会、2020年7月1-31日、Web開催
- 2) 大城久：剖検講習会（領域講習）・病理解剖へのアプローチ法と報告書の書き方. 第109回日本病理学会総会、2020年7月1-31日、Web開催
- 3) 辻賢太郎、仁木利郎、大城久、柴原純二、廣田由佳、仲矢丈雄、河田浩敏、田中亨、福嶋敬宜：小児の終糸脂肪腫にmyxopapillary ependymoma様の上衣成分を伴った1例. 第109回日本病理学会

総会、2020年7月1-31日、Web開催

- 4) 中野尚美、坂口美織、大城久、神谷浩二、前川武雄、小宮根真弓、村田哲、大槻マミ太郎：Low grade fibromyxoid sarcoma (LGFMS) と組織学的鑑別を要した軟部神経周膜腫の1例. 第119回日本皮膚科学会総会、2020年6月4-7日、Web開催

■ 臨床検査部

病理業績 2020年5月から2020年10月（令和2年5月から令和2年10月）

【その他】

- 1) 小島朋子：「フォトサーベイを振り返る 迷った症例から学ぶ その1」講演. アンケート調査報告とフォトサーベイ解説, 埼臨技病理検査研究班, 2020年9月25日, 埼玉
- 2) 猪山和美：「初心者のためのスライドセミナー」講演. 初心者のためのスライドセミナー, 埼臨技細胞検査研究班, 2020年10月2日, 埼玉

総合医学2

■ 一般・消化器外科

【原著】

- 1) Takahashi J, Tsujinaka S, Maemoto R, Miyakura Y, Suzuki K, Fukuda R, Sakio R, Machida E, Rikiyama T : Tolerability and adverse events of adjuvant chemotherapy for rectal cancer in patients with diverting ileostomy. In Vivo. 2020 (in press)
- 2) Tsujinaka S, Fukuda R, Maemoto R, Machida E, Kakizawa N, Takenami T, Miyakura Y, Toyama N, Rikiyama T : Onlay repair using self-gripping mesh for lateral trocar site hernia after laparoscopic incisional hernia repair : A case report with short and mid-term outcome. Int Surg. 2020 (in press)

【学会発表】

- 1) 相澤栄俊、野田弘志、遠藤裕平、伊関雅裕、渡部文昭、加藤高晴、力山敏樹：残膝全摘術の術後栄養指標推移の比較と術後加療の留意点－膝全摘との比較－. 第37回日本胆膵病態・生理研究会 2020年6月20日 紙上.
- 2) 藤原純一、関根匡成、三浦孝也、眞嶋浩聡、加藤高晴、野田弘志、力山敏樹、田中 亨：術前に確定診断が得られなかった胆管内乳頭状腫瘍の一切除例. 第37回日本胆膵病態・生理研究会 2020年6月20日 紙上.
- 3) 野田弘志、柿澤奈緒、渡部文昭、加藤高晴、遠藤裕平、相澤栄俊、力山敏樹：膝頭十二指腸切除術前腹部動脈石灰スコア評価による高齢者ハイリスク症例の同定. 第120回日本外科学会定期学術集会 2020年8月13-15日 Web・横浜 口演.
- 4) 田中直樹、小櫃 保、小山 淳、上野達也、島村弘宗、須藤 剛、西條文人、山内淳一郎、三浦康、力山敏樹、海野倫明、内藤 剛：腹腔鏡手術後における静脈血栓塞栓症予防に対する低分子量ヘパリン (Enoxaparin Sodium) の有効性についての他施設共同無作為化比較試験NEXTSURG 012-001. 第120回日本外科学会定期学術集会 2020年8月13-15日 Web・横浜 口演.
- 5) 渡部文昭、野田弘志、相澤栄俊、遠藤裕平、笠原尚哉、加藤高晴、齊藤正昭、辻仲眞康、宮倉安幸、力山敏樹：関門部領域胆管癌切除限界への挑戦と治療成績. 第120回日本外科学会定期学術集会 2020年8月13-15日 Web・横浜 デジタ

ルポスター.

- 6) 相澤栄俊、野田弘志、遠藤裕平、渡部文昭、笠原尚哉、加藤高晴、力山敏樹：右冠動脈前後枝個別再建を伴う肝左葉切除・同門脈合併切除で根治切除し得た関門部領域胆管癌の1例. 第120回日本外科学会定期学術集会 2020年8月13-15日 Web・横浜 デジタルポスター.
- 7) 加藤高晴、野田弘志、笠原尚哉、渡部文昭、遠藤裕平、相澤栄俊、辻仲眞康、宮倉安幸、清崎浩一、力山敏樹：80歳以上の高齢者に対する膝頭十二指腸切除術後の治療成績及び長期予後予測因子の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会 2020年8月13-15日 Web・横浜 デジタルポスター.
- 8) 水澤由樹、辻仲眞康、前本 遼、高山法也、福田臨太郎、宮倉安幸、田巻佐和子、石川英樹、力山敏樹：回腸ストーマ閉鎖創における腹壁瘻痕ヘルニアのリスク因子の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会、2020年8月13-15日、Web・横浜、デジタルポスター.
- 9) 前本 遼、辻仲眞康、水澤由樹、高山法也、福田臨太郎、宮倉安幸、田巻佐和子、石川英樹、力山敏樹：一時的回腸ストーマ造設後ストーマ閉塞に関する検討. 第120回日本外科学会定期学術集会 2020年8月13-15日 Web・横浜 デジタルポスター.
- 10) 宮倉安幸、高橋洵、前本遼、高山法也、福田臨太郎、田巻佐和子、石川英樹、辻仲眞康、力山敏樹：高齢者大腸癌手術における術前併存疾患の術後経過へ与える影響の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会 2020年8月13-15日 Web・横浜 デジタルポスター.
- 11) 宮倉安幸、田巻佐和子、町田枝里華、前本遼、高山裕司、石川英樹、福田臨太郎、齊藤正昭、辻仲眞康、蓬原一茂、野田弘志、鈴木浩一、清崎浩一、力山敏樹：MSI-H 固形癌に対する抗 PD-1 抗体薬ペムプロリズマブの治療状況. 第26回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 2020年8月21日-31日 Web・大阪 口演.
- 12) 相澤栄俊、野田弘志、遠藤裕平、伊関雅裕、渡部文昭、加藤高晴、力山敏樹：膝頭十二指腸切除後出血症例に対する治療成績の検討. 第47回日本膝切研究会 2020年8月28-29日 Web・福岡口演.
- 13) 蓬原一茂、野田弘志、加藤高晴、力山敏樹、田中亨、尾本きよか：穿刺吸引細胞診が有用であった甲状腺内副甲状腺腺腫の1例－副甲状腺穿刺吸引細胞診の検討－. 第32回日本内分泌外科学会

- 2020年9月17-18日 Web・長崎 口演.
- 14) 加藤高晴、野田弘志、蓬原一茂、力山敏樹：腹痛を契機に指摘され腹腔鏡下に同時手術を施行した右副腎神経節細胞腫と右卵巣成熟嚢胞奇形腫の一例. 第32回日本内分泌外科学会 2020年9月17-18日 Web・長崎 口演.
 - 15) 力山敏樹、渡部文昭：安全な腹腔鏡下胆のう摘出手術. 第56回日本胆道学会学術集会 2020年10月1-2日 Web・福岡 指導医養成講座口演.
 - 16) 渡部文昭、相澤栄俊、遠藤裕平、伊関雅裕、加藤高晴、野田弘志、力山敏樹：肝門部領域胆管がんに対するNo.13aリンパ節郭清の手術手技と重要性. 第56回日本胆道学会学術集会 2020年10月1-2日 Web・福岡 口演.
 - 17) 伊関雅裕、渡部文昭、加藤高晴、関根匡成、野田弘志、眞嶋浩聡、力山敏樹：腹腔鏡下胆嚢摘出後トラブルシューティングの自験例. 第56回日本胆道学会学術集会 2020年10月1-2日 Web・福岡 口演.
 - 18) 相澤栄俊、野田弘志、高橋 洵、遠藤裕平、伊関雅裕、渡部文昭、加藤高晴、力山敏樹：臍頭十二指腸切除術後出血症例に対する治療成績の検討. 第56回日本腹部救急医学会総会 2020年10月8-9日 Web・名古屋 シンポジウム口演.
 - 19) 蓬原一茂、尾本きよか、力山敏樹：サナゾイド静脈内投与による乳癌術前センチネルリンパ節同定法の検討. 第28回日本乳がん学会学術集会 2020年10月9-31日 Web デジタルポスター.
 - 20) 塩沢 学、小高雅人、坂本康寛、塩見明生、牧山明資、宗本義則、力山敏樹、福永 睦、山中竹春、須並英二、山崎健太郎、大津 敦、前原喜彦、吉野孝之：ハイリスクstage II結腸癌患者におけるリスク因子の予後に与える影響：ACHIEVE-2試験. 第58回日本癌治療学会学術集会 2020年10月23-24日 Web・京都 口演.
 - 21) 渡部文昭、相澤栄俊、遠藤裕平、伊関雅裕、加藤高晴、野田弘志、力山敏樹：肝門部領域胆管癌切除限界への挑戦と治療成績. 第82回日本臨床外科学会総会 2020年10月29-31日 Web 口演.
 - 22) 兼光梨奈、前本 遼、宮倉安幸、辻仲眞康、福田臨太郎、柿澤奈緒、竹浪 努、町田枝里華、田巻佐和子、石川英樹、力山敏樹：化学療法中のCVポートの断裂を生じた一例. 第82回日本臨床外科学会総会 2020年10月29-31日 Web 口演.
 - 23) 倉林理紗子、前本 遼、辻仲眞康、宮倉安幸、福田臨太郎、柿澤奈緒、竹浪 努、町田枝里華、兼光梨奈、田巻佐和子、石川英樹、力山敏樹：空腸間膜に発生したvenous hemangioma一切除例. 第82回日本臨床外科学会総会 2020年10月29-31日 Web 口演.
 - 24) 水澤由樹、辻仲眞康、町田枝里華、高橋 洵、福田臨太郎、前本 遼、高山法也、遠山信幸、力山敏樹：6か月の外科研修で経験した鼠径ヘルニア手術の反省と今後の課題. 第18回日本ヘルニア学会学術集会 2020年11月3-4日 Web 学会長セッション口演.
 - 25) 町田枝里華、辻仲眞康、水澤由樹、菊地 望、柿澤奈緒、遠山信幸、力山敏樹：当科における鼠径ヘルニア手術と女性外科医の役割. 第18回日本ヘルニア学会学術集会 2020年11月3-4日 Web シンポジウム口演.
 - 26) 前本 遼、辻仲眞康、福田臨太郎、町田枝里華、高山法也、武藤雄太、齊藤正昭、遠山信幸、力山敏樹：Component Separation法にOnlay meshを付加した腹壁癒痕ヘルニアの8例. 第18回日本ヘルニア学会学術集会 2020年11月3-4日 口演.
 - 27) 辻仲眞康、前本 遼、町田枝里華、水澤由樹、福田臨太郎、遠山信幸、力山敏樹：メッシュの特性を理解する：なぜlightweight, large poreなのか？ 第18回日本ヘルニア学会学術集会 Web 2020年11月3-4日 パネルディスカッション口演.
 - 28) 加藤高晴、野田弘志、渡部文昭、力山敏樹：肝細胞癌術後早期再発のバイオマーカーとしてのPIVK-II/腫瘍容積比の有効性. 第24回日本肝臓学会大会 (JDDW) 2020年11月5-8日 デジタルポスター.
 - 29) 渡部文昭、相澤栄俊、遠藤裕平、伊関雅裕、加藤高晴、野田弘志、力山敏樹：肝門部領域胆管がんに対するNo.13aリンパ節郭清の必要性. 第18回日本消化器外科学会大会 (JDDW)、2020年11月5-8日 Web・神戸 デジタルポスター.
 - 30) 森川孝則、林 洋毅、水間正道、青木修一、島 達夫、伊関雅裕、三浦孝之、高館達之、前田晋平、有明恭平、川口 桂、益田邦洋、石田晶玄、大塚英郎、中川 圭、亀井 尚、海野倫明：後期高齢者における臍癌術後短期および長期成績. 第18回日本消化器外科学会大会 (JDDW) 2020年11月5-8日 Web・神戸 デジタルポスター.
 - 31) 前本 遼、宮倉安幸、辻仲眞康、柿澤奈緒、町田枝里華、田巻佐和子、石川英樹、力山敏樹：内頸静脈経路で挿入された埋め込み型中心静脈カテーテル断裂を認めた2例. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会 2020年11月13-14日 Web デジタルポスター.
 - 32) 崎尾亮太郎、宮倉安幸、町田枝里華、田巻佐和

子、前本 遼、竹浪 努、福田臨太郎、柿澤奈緒、辻仲眞康、力山敏樹：大腸癌肺転移切除後の再発に対する危険因子の検討. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会 2020年11月13-14日 Web 口演.

【著書・総説】

- 1) 宮倉安幸：腸閉塞症 総論 消化管症候群（第3版）(IV) - その他の消化管疾患を含めて - 別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズNo.12 p299-303 2020年.
- 2) 富田尚裕、石田秀行、山口達郎、田中屋宏爾、赤木 究、石川秀樹、川崎優子、隈元謙介、下平秀樹、関根茂樹、高山哲治、田中敏明、田村和朗、田村智英子、千野晶子、中島 健、中山佳子、檜井孝夫、平沢 晃、宮倉安幸：大腸癌研究会編 遺伝性大腸癌診療ガイドライン2020年度版 金原出版株式会社、2020年.

【その他】

- 1) 齊藤正昭：消化器系がんにおける内服抗がん薬と点滴抗がん薬との併用レジメンについて. 埼玉県薬剤師会 在宅医療推進ステップアップ講習会 step6、2020年8月23日 Web 講習会講師.
- 2) 力山敏樹：肝門部領域胆管癌における集学的治療について. 第8回北海道消化器癌カンファレンス 2020年9月18日 Web 特別講演.
- 3) Shingo Tsujinaka : Initial experience of powered circular stapler in low anterior resection. 3rd KFSYSCC ACCO Update and Sharing of Minimally Invasive Colorectal Surgery 2020.8.22, Taipei · Web Invited speaker
- 4) 辻仲眞康：がん治療のいま. 日本オストミー協会 埼玉県支部 川越会場医療講習会 2020年9月20日 川越 · Web 講演.

■ 心臓血管外科

【原著論文】

- 1) Okamura H, Arakawa M, Kimura N, Yuri K, Yamaguchi A : Contemporary outcomes of composite aortic root replacement in elderly patients. *Interact Cardiovasc Thorac Surg.* 30 : 443-50, 2020
- 2) Okamura H, Kimura N, Mieno M, Yuri K, Yamaguchi A : Preoperative sarcopenia is associated with late mortality after off-pump coronary artery bypass grafting. *Eur J*

Cardiothorac Surg. 58 : 121-129, 2020

- 3) Okamura H, Arakawa M, Miyagawa A, Kitada Y, Adachi H : Arch replacement for acute type A aortic dissection using a single fenestrated frozen elephant trunk technique. *Ann Cardiothorac Surg.* 9 : 248-250, 2020
- 4) Okamura H, Kitada Y, Miyagawa A, Arakawa M : Sandwich repair for postinfarction ventricular septal rupture and left ventricular rupture. *Gen Thorac Cardiovasc Surg.* in press
- 5) Okamura H : Reply : Is extracorporeal membrane oxygenation useful in cardiac tamponade? *J Thorac Cardiovasc Surg.* in press
- 6) Okamura H, Hori D, Kusadokoro S, Mieno M, Kimura N, Yuri K, Yamaguchi A : Long-term outcomes and echocardiographic data after aortic valve replacement with a 17-mm mechanical valve. *Circ J.* in press
- 7) Arakawa M, Okamura H, Miyagawa A, Kitada Y, Adachi H : Clinical outcome of acute thoracic aortic syndrome in nonagenarians. *Asian Cardiovasc Thorac Ann.* 2020
- 8) Fujimura N, Imazuru T, Matsumura H, Shibata T, Furuyama T, Kaneko K, Uchiyama H, Morikage N, Uchida T, Teshima E, Yamaoka T, Masuhara H, Ueda H, Arakawa M, Norimatsu T, Obara H, Onitsuka S. *Circ J* : Two-Year Results of a Multicenter Prospective Observational Study of the Zenith Spiral-Z Limb Deployed in the External Iliac Artery During Endovascular Aneurysm Repair. 25 ; 84 (10) : 1764-1770, Sep 2020
- 9) Ono K, Arakawa M, Nakano T, Okamura H : Hybrid surgery for anomalous systemic arterial supply to the basal segments of the lung. *Interact Cardiovasc Thorac Surg.* 2020
- 10) Nakano M, Nomura Y, Giancarlo S, Brian B, Jing T, Yamaguchi A, Jeremy W, Rani H, Kaushik M, Stefano S, Charles W H, Charles H Brown 4th : Functional Outcomes of Frail Patients After Cardiac Surgery. An Observational Study *Anesth Analg.* 130 (6) : 1534-1544, Jun 2020
- 11) Nakano M, Kimura N, Nonaka T, Mieno M, Tanno K, Sasabuchi K, Kitada Y, Hori D, Yuri K, Matsumoto H, Yamaguchi A, Hanaoka K : Etiology and impact on outcomes of polycystic kidney disease in abdominal aortic aneurysm *Surg Today.* 50 (10) : 1213-1222, Oct 2020

- 12) Tashima Y, Hao He, Jason Z. Cui, Albert J. Pedroza, Nakamura K, Yokoyama N, Cristiana Iosef, Grayson Burdon, Tiffany Koyano, Yamaguchi Y, Michael P. Fischbein : Androgens Accentuate TGF- β dependent Erk/Smad activation during Thoracic Aortic Aneurysm Formation in Marfan syndrome Male Mice. JAHA in press
- 13) J. Pedroza, Tashima Y, Rohan Shad, Paul Cheng, Robert Wirka, Samantha Churovich, Nakamura K, Yokoyama N, Jason Z. Cui, Cristiana Iosef, William Hiesinger, Thomas Quertermous, Michael P. Fischbein : Single-Cell Transcriptomic Profiling of Vascular Smooth Muscle Cell Phenotype Modulation in Marfan Syndrome Aortic Aneurysm. Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology. 40 : 2195–2211, 2020
- 14) Shimizu T, Kimura N, Mieno M, Hori D, Shiraishi M, Tashima Y, Yuri K, Itagaki R, Aizawa K, Kawahito K, Yamaguchi A : Investigation of the effect of obesity on outcomes of acute type A aortic dissection repair in Japan. Circulation Reports. 2020 in press
- 15) Kimura N, Momose N, Kusadokoro S, Yasuda T, Kusaura R, Kokubo R, Hori D, Okamura H, Itoh S, Yuri K, Yamaguchi A : Minimized perfusion circuit for acute type A aortic dissection surgery. Artif Organs. 2020 in press
- 16) Nakano M, Kimura N, Nonaka T, Mieno M, Tanno K, Sasabuchi Y, Kitada Y, Hori D, Yuri K, Matsumoto H, Yamaguchi A, Hanaoka K : Etiology and impact on outcomes of polycystic kidney disease in abdominal aortic aneurysm. Surg Today. 2020 in press
- 17) Kreibich M, Desai ND, Bavaria JE, Szeto WY, Vallabhajosyula P, Beyersdorf F, Czerny M, Siepe M, Rylski B, Itagaki R, Okamura H, Yamaguchi A, Kimura N : Common carotid artery true lumen flow impairment in patients with type A aortic dissection. Eur J Cardiothorac Surg. 2020 in press
- 18) Okamura H, Hori D, Kusadokoro S, Mieno M, Kimura N, Yuri K, Yamaguchi A : Long-term outcomes and echocardiographic data after aortic valve replacement with a 17-mm mechanical valve. Circ J. 2020 in press
- 19) Kusadokoro S, Kimura N, Miyoshi K, Hori D, Shiraishi M, Yamaguchi A : Early superior mesenteric artery revascularization for acute type A aortic dissection with cardiac tamponade and mesenteric malperfusion. J Card Surg. 2020 in press
- 20) Hori D, Yuri K, Kusadokoro S, Shimizu T, Kimura N, Yamaguchi A : Effect of endoprostheses on pulse wave velocity and its long-term outcomes after thoracic endovascular aortic repair. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 in press
- 21) Kimura N, Nomura Y, Aomatsu A, Matsuda A, Imamura Y, Taniguchi Y, Hori D, Morishita Y, Fujita H, Yuri K, Matsumoto K, Yamaguchi A : Effect of transcatheter aortic valve implantation on the immune response associated with surgical aortic valve replacement. Am J Cardiol. 128 : 35-44, 2020
- 22) Hori D, Kusadokoro S, Shimizu T, Kimura N, Yamaguchi A : Prosthetic graft dilation at the aortic arch in the era of hybrid aortic surgery. Ann Vasc Dis. 13 : 163-169, 2020
- 23) Yokoyama N, Nonaka T, Kimura N, Sasabuchi Y, Hori D, Matsunaga W, Fujimori T, Miyoshi K, Matsumoto H, Yamaguchi A : Acute kidney injury following elective open aortic repair with suprarenal clamping. Ann Vasc Dis. 13 : 45-51, 2020
- 24) Kusadokoro S, Kimura N, Hori D, Hattori M, Matsunaga W, Itagaki R, Yuri K, Mieno M, Nakamura M, Yamaguchi A : Utility of double arterial cannulation for surgical repair of acute type A dissection. Eur J Cardiothorac Surg. 57 : 1068-1075, 2020
- 25) Suzuki K, Kimura N, Mieno M, Hori D, Sezai A, Yamaguchi A, Tanaka M : Factors related to white blood cell elevation in acute type A aortic dissection. PLoS One. 15 : e0228954, 2020
- 26) Okamura H, kimura N, Mieno M, Yuri K, Yamaguchi A : Preoperativesarcopenia is associated with late mortality after off-pump coronary artery bypass grafting. Eur J Cardiothorac Surg. 58 : 121-129, 2020
- 27) Kreibich M, Desai ND, Bavaria JE, Szeto WY, Vallabhajosyula P, Itagaki R, Okamura H, Kimura N, Yamaguchi A, Beyersdorf F, Czerny M, Rylski B : Preoperative neurological deficit in acute type A aortic dissection. Interact Cardiovasc Thorac Surg. 30 : 613-619, 2020

【学会発表】

- 1) 荒川 衛、岡村 誉、宮川敦志、北田悠一郎、安達秀雄：開窓型オープンステントグラフトを用いた弓部置換術のピットフォール. 第182回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、2020年3月7日、紙上開催
- 2) 橋本和憲、河原拓也、山本貴裕、佐藤哲也、伊藤 智：左冠動脈左室瘻の1例. 第183回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、2020年6月13日、Web開催
- 3) 田島 泰、中村宜由、中田弘子、安達晃一：shaggy aortaを有する弓部大動脈瘤に対しisolated cerebral perfusion techniqueを使用し人工血管置換術を施行した一例. 第183回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、2020年6月13日、Web開催
- 4) 田島 泰、豊嶋ゆりえ、中村宜由、中田弘子、安達晃一：高齢者における急性A型大動脈解離術後独歩退院した症例の検討. 第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18日-19日、Web開催
- 5) 岡村 誉、荒川 衛、宮川敦志、北田悠一郎、安達秀雄：急性A型大動脈解離手術の工夫：Fenestrated frozen elephant trunk法と上行大動脈送血. 第50回日本心臓血管外科学会学術総会、2020年8月17日-19日、Web開催
- 6) 荒川 衛、岡村 誉、宮川敦志、北田悠一郎、安達秀雄：全弓部大動脈置換術後の反回神経麻痺回避の工夫. 第50回日本心臓血管外科学会学術総会、2020年8月17日-19日、Web開催
- 7) 住吉 力、藤井健人、白杉岳洋、森田英幹：透析用シャント感染により肺膿瘍を来した1例. 第61回日本脈管学会総会、2020年10月13-14日、Web開催
- 8) 岡村 誉、荒川 衛、宮川敦志、北田悠一郎、安達秀雄：急性A型大動脈解離に対するFenestrated frozen elephant trunk technique. 第73回日本胸部外科学会定期学術集会、2020年10月28日-11月1日、Web開催
- 9) 荒川 衛、岡村 誉、宮川敦志、北田悠一郎、安達秀雄：末梢側吻合をZone 2またはZone 3で行った弓部大動脈置換術の反回神経麻痺の発生頻度. 第73回日本胸部外科学会定期学術集会、2020年10月28日-11月1日、Web開催
- 10) 篠田大悟、野村陽平、草刈 翔、藤森智成、堀大治郎、白石 学、木村直行、由利康一、山口敦司：大動脈弁置換術後、弁下パヌスの診断にCTが有用であった一例. 第73回日本胸部外科学会定期学術集会、2020年10月28日-11月1日、

Web開催

- 11) Okamura H, Arakawa M, Miyagawa A, Kitada, Y, Adachi H : The fenestrated frozen elephant trunk technique for arch repair in acute type A aortic dissection. 34th EACTS Annual Meeting, 2020/10/8-10. On the Web

【研究会】

- 1) 岡村 誉：急性大動脈解離と腹部大動脈瘤破裂. 練馬救急業務連絡協議会救急研究会、2020年2月7日、東京

■ 呼吸器外科

【原著論文】

- 1) Minegishi K, Tsubochi H, Maki M, Endo S : The length of the left superior pulmonary vein stump after left upper lobectomy depends on its position to the left atrial appendage. J Thorac Dis. 12 : 4099-4104, 2020
- 2) Tsubochi H, Minegishi K, Goto A, Nakamura R, Matsubara D, Dobashi Y : EphA2, a possible target of miR-200a, functions through the AKT2 pathway in human lung carcinoma. Int J Clin Exp Pathol. 13 : 2201-2210, 2020.

【学会発表】

- 1) 坪地宏嘉、峯岸健太郎、大野慧介、小森健二郎、山名輝、柴野智毅、金井義彦、根岸秀樹、山本真一、遠藤俊輔：胸部悪性腫瘍に対する血行再建術の手技と成績. 第120回日本外科学会定期学術集会、2020年8月13-15日、横浜
- 2) 遠藤俊輔、千田雅之：NCD10年を振り返る 今後の展望 呼吸器外科領域. 第120回日本外科学会定期学術集会、2020年8月13-15日、横浜
- 3) 大野慧介、大関雅樹、小森健二郎、峯岸健太郎、坪地宏嘉、遠藤俊輔：気道ステントにより重篤な肺炎が改善した食道癌治療後の気道瘻の2例. 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、2020年6月26-27日、旭川
- 4) 根岸秀樹、柴野智毅、金井義彦、大谷真一、山本真一、遠藤俊輔：気管支良性腫瘍に対する気管支鏡下切除の検討. 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、2020年6月26-27日、旭川
- 5) 峯岸健太郎、大野慧介、大谷真一、坪地宏嘉、山本真一、遠藤俊輔：当院における気道ステントの検討 気道ステントははじめました. 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、2020年6月26-27

- 日, 旭川
- 6) 峯岸健太郎、小森健二郎、大野慧介、坪地宏嘉、遠藤俊輔：大咯血で換気不能となったが、V-V ECMOを使用し二期的手術で救命し得た右侵襲性肺アスペルギルス症の1例。第37回日本呼吸器外科学会学術集会，2020年9月29日-10月12日，Web開催
 - 7) 峯岸健太郎、小森健二郎、大野慧介、坪地宏嘉、遠藤俊輔：左上肺静脈-左心耳の解剖学的位置関係と左肺上葉切除後の左上肺静脈切離断端長の検討。第37回日本呼吸器外科学会学術集会，2020年9月29日-10月12日，Web開催
 - 8) 根岸秀樹、遠藤俊輔、山本真一、大谷真一、金井義彦、光田清佳、柴野智毅、大関雅樹、山名輝：当科における拡大舌区下葉管状切除術の成績。第37回日本呼吸器外科学会学術集会，2020年9月29日-10月12日，Web開催
 - 9) 大谷真一、山本真一、金井義彦、柴野智毅、根岸秀樹、山名輝、遠藤俊輔：ラットモデル形態観察による再膨張性肺水腫の発症機序解明。第37回日本呼吸器外科学会学術集会，2020年9月29日-10月12日，Web開催
 - 10) 大野慧介、大関雅樹、小森健二郎、峯岸健太郎、坪地宏嘉、遠藤俊輔：化学放射線療法およびDurvalumab投与後にサルベージ手術を施行した右上葉肺癌の1切除例。第37回日本呼吸器外科学会学術集会，2020年9月29日-10月12日，Web開催
 - 11) 大関雅樹、遠藤俊輔、山本真一、大谷真一、金井義彦、光田清佳、柴野智毅、根岸秀樹、山名輝：術中に発症したフィブリン糊によるアナフィラキシーショックの一例。第37回日本呼吸器外科学会学術集会，2020年9月29日-10月12日，Web開催

【その他】

- 1) 遠藤 俊輔：会長講演「呼吸器外科のベンチマーク」，第37回日本呼吸器外科学会学術集会，2020年9月29日-10月12日，Web開催

■ 眼 科

【原著論文】

- 1) Nakahara H, Kaburaki T, Tanaka R, Yoshida A, Takamoto M, Kawata M, Fujino Y, Kawashima H, Aihara M. : Comparisons of clinical features in Japanese patients with Behçet's uveitis treated in the 1990s and the 2000s. *Ocul Immunol Inflamm.* 28 (2) : 262-269, 2020
- 2) Louthrenoo W, Kasitanon N, Pathanapitton K, Wangkaew S, Kuwata S, Nishi A, Kaburaki T, Tanaka R, Takeuchi F. : Contribution of HLA-B*51 : 01 and -A*26 : 01 to Behçet's disease and their clinical association in Thai patients. *Int J Rheum Dis.* 2020 Feb ; 23 (2) : 247-255.
- 3) Nakano S, Tomaru Y, Kubota T, Takase H, Mochizuki M, Shimizu N, Sugita S ; Strip PCR Project Group. Evaluation of a multiplex Strip PCR test for infectious uveitis : a prospective multi-center study. *Am J Ophthalmol.* 2020 ; 213 : 252-259.
- 4) Tanaka R, Kaburaki T, Yoshida A, Takamoto M, Miyaji T, Yamaguchi T. : Fluorescein Angiography Scoring System Using Ultra-Wide-Field Fluorescein Angiography Versus Standard Fluorescein Angiography in Patients with Sarcoid Uveitis. *Ocul Immunol Inflamm.* 2020 Mar 12 : 1-5.
- 5) Kitano M, Tanaka R, Kaburaki T, Nakahara H, Shirahama S, Suzuki T, Komae K, Aihara M. : Clinical Features and Visual Outcome of Uveitis in Japanese Patients Younger than 18 Years. *Ocul Immunol Inflamm.* 2020 Mar 12 : 1-7.
- 6) Igarashi N, Honjo M, Yamagishi R, Kurano M, Yatomi Y, Igarashi K, Kaburaki T, Aihara M. : Involvement of autotaxin in the pathophysiology of elevated intraocular pressure in Posner-Schlossman syndrome. *Sci Rep.* 2020 Apr 14 ; 10 (1) : 6265.
- 7) Sato T, Yamamoto W, Tanaka A, Shimazaki H, Sugita S, Kaburaki T, Takeuchi M. : Viral Loads in Ocular Fluids of Acute Retinal Necrosis Eyes Infected by Varicella-Zoster Virus Treated with Intravenous Acyclovir Treatment. *J Clin Med.* 2020 Apr 22 ; 9 (4). pii : E1204.
- 8) Shirahama S, Miki A, Kaburaki T, Akimitsu N. : Long Non-coding RNAs Involved in Pathogenic Infection. *Front Genet.* 2020 May 26 ; 11 : 454.
- 9) Kinoshita N, Konno Y, Hamada N, Kanda Y, Shimmura-Tomita M, Kaburaki T, Kakehashi A. : Efficacy of combined orthokeratology and 0.01% atropine solution for slowing axial elongation in children with myopia : a 2-year randomised trial. *Sci Rep.* 2020 ; 10 : 12750.
- 10) Igarashi N, Honjo M, Kaburaki T, Aihara M. :

Effects of ROCK Inhibitors on Apoptosis of Corneal Endothelial Cells in CMV-Positive Posner-Schlossman Syndrome Patients. Invest Ophthalmol Vis Sci. 2020 ; 61 (10) : 5.

- 11) Meguro A, Ishihara M, Petrek M, Yamamoto K, Takeuchi M, Mrazek F, Kolek V, Benicka A, Yamane T, Shibuya E, Yoshino A, Isomoto A, Ota M, Yatsu K, Shijubo N, Nagai S, Yamaguchi E, Yamaguchi T, Namba K, Kaburaki T, Takase H, Morimoto SI, Hori J, Kono K, Goto H, Suda T, Ikushima S, Ando Y, Takenaka S, Takeuchi M, Yuasa T, Sugisaki K, Ohguro N, Hiraoka M, Kitaichi N, Sugiyama Y, Horita N, Asukata Y, Kawagoe T, Kimura I, Ishido M, Inoko H, Mochizuki M, Ohno S, Bahram S, Remmers EF, Kastner DL, Mizuki N. : Genetic control of CCL24, POR, and IL23R contributes to the pathogenesis of sarcoidosis. Commun Biol. 2020 Aug 21 ; 3 (1) : 465
- 12) Takase H, Goto H, Namba K, Mizuki N, Okada AA, Ohguro N, Sonoda KH, Tomita M, Keino H, Kezuka T, Kubono R, Mizuuchi K, Shibuya E, Takahashi H, Yanai R, Mochizuki M. : the Japan ARN study group. Clinical Characteristics, Management, and Factors Associated with Poor Visual Prognosis of Acute Retinal Necrosis. Ocul Immunol Inflamm. 2020 Sep 18 : 1-6.
- 13) 渡邊未奈、蕪城俊克、武島聡史、武田義玄、高木理那、田中克明、榛村真智子、木下望、高野博子、梯彰弘：強膜バックリング術後に眼窩先端症候群を呈し診断に苦慮した肥厚性硬膜炎の1例。あたらしい眼科 37 (8) : 1018-1021、2020

【学会発表】

- 1) 山口亜矢、蕪城俊克、平戸岬、小橋智恵子、長谷川哲也、佐藤智美、齊藤恵美、渡辺綾子、田中克明、高野博子、梯彰弘：視覚障害認定における自動視野計とゴールドマン型視野計の比較。第21回日本ロービジョン学会学術総会、2020年7年3-12日、web開催
- 2) 武島聡史、齊間至成、西島崇敬、御任真言、渡邊未奈、田中克明、高野博子、蕪城俊克、梯彰弘：CHARGE症候群に合併した網膜剥離に硝子体手術を施行した1例。第66回埼玉県眼科集談会、2020年9月13日、Web講演会

■ 皮膚科

(2020.5~2020.10)

【学会発表】

- 1) 加倉井真樹、原田和俊、梅本尚可、出光俊郎：エフィナコナゾール爪外用液で治癒した小児爪白癬の2例。第32回東北真菌懇話会、2020年7月12日、仙台市
- 2) 加倉井真樹、梅本尚可、出光俊郎：頭部白癬を思わせ、検鏡により診断した頭部白癬の1例。第32回東北真菌懇話会、2020年7月12日、仙台市
- 3) 出光俊郎、梅本尚可、加倉井真樹、前田龍郎、原田和俊：健常人にみられたにきび様丘疹の像を呈した皮膚*Exophiala oligosperma* 感染症の1例。第32回東北真菌懇話会、2020年7月12日、仙台市
- 4) 出光俊郎、福井伶奈、松本崇直、金谷璃菜、加倉井真樹、梅本尚可、若旅功二、大瀧 薫、竹下雅子、山田朋子：治療開始まで長期間を要した*Microsporum canis*による頭部白癬の小児例。第32回東北真菌懇話会、2020年7月12日、仙台市
- 5) 梅本尚可、金谷璃菜、福井伶奈、加倉井真樹、三崎柚季子、酒井利育、出光俊郎：慢性活動性EBウイルス感染症 (CAEBV) に対する骨髓移植後にみられた重症カンジダ性口唇炎。第32回東北真菌懇話会、2020年7月12日、仙台市
- 6) 福井伶奈、梅本尚可、加倉井真樹、酒井利育、三崎柚季子、賀古真一、田中 亨、出光俊郎：カンジダ性敗血症患者にみられた特異な皮膚カンジダ症の1例。第32回東北真菌懇話会、2020年7月12日、仙台市
- 7) 加倉井真樹、原田和俊、梅本尚可、加納 塁、出光俊郎：本邦におけるテルピナフィン耐性白癬菌蔓延の警鐘 – 在日インド人・スリランカ人の広範囲体部白癬5症例の検討から –。第84回日本皮膚科学会東部支部学術大会、2020年8月22-23日、WEB開催
- 8) 加倉井真樹、原田和俊、梅本尚可、出光俊郎：エフィコナゾール爪外用液で治癒した小児爪白癬の2例。第84回日本皮膚科学会東部支部学術大会、2020年8月22-23日、WEB開催
- 9) 野口友里、梅本尚可、福井伶奈、松本崇直、高澤摩耶、川瀬正昭、秋元幸子、中野 創、出光俊郎：点状白斑と白色丘疹が混在したDarier病の1例。第84回日本皮膚科学会東部支部学術大会、2020年8月22-23日、WEB開催
- 10) 野口友里、梅本尚可、福井伶奈、松本崇直、高澤摩耶、出光俊郎：外陰部に著明な懸垂状を呈した

- 血管筋線維芽細胞腫の1例. 日本皮膚科学会第891回東京地方会(合同臨床地方会)、2020年9月5日、WEB開催
- 11) 松坂美貴、松本崇直、梅本尚可、井上多恵、江州欣彦、後明晃由美、出光俊郎：鼻の壊疽を呈したNK/T細胞リンパ腫鼻型の1例. 第48回埼玉県皮膚科医会集談会、2020年9月6日、さいたま市
 - 12) 新井優希、松本崇直、梅本尚可、倉石夏紀、蛭田昌宏、出光俊郎：乳頭状汗管嚢胞腺腫を合併した(エクリン)汗孔腫の1例. 第48回埼玉県皮膚科医会集談会、2020年9月6日、さいたま市
 - 13) 金谷璃菜、梅本尚可、出光俊郎、大城久、田中亨、半田祐一：灰青色の色素沈着を生じたシェーグレン症候群の一例. 第48回埼玉県皮膚科医会集談会、2020年9月6日、さいたま市
 - 14) 大瀧薫、山田朋子、松本崇直、高澤摩耶、平久保由香、梅本尚可、出光俊郎：シクロスポリン内服が奏効した小児膿疱性乾癬の1例. 第35回日本乾癬学会、2020年9月12-13日、WEB開催
 - 15) 福井伶奈、梅本尚可、川瀬正昭、中野崇文、民井智、出光俊郎：埋伏歯が原因であった菌性蜂窩織炎の1例. 第36回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会、2020.9.21-22、浜松市
 - 16) 金谷璃菜、梅本尚可、出光俊郎、大城久、田中亨、半田祐一：灰青色の色素沈着を生じたシェーグレン症候群の1例. 第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2020年10月10-11日、WEB開催
 - 17) 松坂美貴、松本崇直、梅本尚可、井上多恵、江州欣彦、後明晃由美、出光俊郎：鼻の壊疽を呈したNK/T細胞リンパ腫鼻型の1例. 第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2020年10月10-11日、WEB開催
 - 18) 松本崇直、梅本尚可、堀博志、松見信平、江藤洋子、出光俊郎：コレステロール結晶塞栓症を疑った本態性血小板血症による足趾潰瘍の1例. 第72回日本皮膚科学会西部支部学術大会、2020年10月24-25日、WEB開催
 - 19) 新井優希、松本崇直、梅本尚可、倉石夏紀、蛭田昌宏、出光俊郎：乳頭状汗管嚢胞腺腫を合併した(エクリン)汗孔腫の1例. 第72回日本皮膚科学会西部支部学術大会、2020年10月24-25日、WEB開催
- 【原著論文】**
- 1) Demitsu T, Umemoto N, Maeda T, Kakurai M, Harada K : Cutaneous exophiala oligosperma infection presenting with multipler, rosacea-like papules on the cheek in a healthy individual. J Dermatol 47 (8) : e308-e310, 2020
 - 2) Takazawa M, Demitsu T, Miyata T, Kakurai M, Tanaka A, Umemoto N : Cutaneous carcinomatous lymphangiosis mimicking angiosarcoma of the face possible caused by salivary duct carcinoma. J Dermatol Aug 4, 2020 (online ahead of print)
 - 3) Umemoto N, Demitsu T, Otaki K, Matsumoto T, Takazawa M, Yamada A, Kimura SI, Kakurai M : Dupilumab therapy in Sezary syndrome misdiagnosed as atopic dermatitis : A case report. J Dermatol Jul 16, 2020 (online ahead of print)
 - 4) Nakaminami H, Miyata T, Yokomori S, Fusegawa T, Murata S, Noguchi N : Detection of Panton-Valentine leukocidin-positive livestock-associated Staphylococcus aureus CC389 clone in a Vietnamese patient in Japan. J Global Antimicrobial Resistance 23 : 72-73, 2020
 - 5) Maki N, Hashimoto T, Yamada T, Ishii N, Tsuruta D, Demitsu T : Case of pemphigoid with immunoglobulin G antibodies to BP180 C-terminal domain and laminin- γ 1 (p200) developed after pneumococcal vaccination. J Dermatol Sep24, 2020 (online ahead of print)
 - 6) Kano R, Kimura U, Kakurai M, Hiruma J, Kamata H, Suga Y, Harada K : Trichophyton indotineae sp. nov. : a new highly terbinafine-resistant anthropophilic dermatophyte species : Mycopathologia May 24, 2020 (online ahead of print)
 - 7) 加倉井真樹、原田和俊、梅本尚可、出光俊郎：エフィナコナゾール爪外用液で治癒した小児爪白癬の2例. 臨床皮膚科74 (7) : 536-540, 2020
 - 8) 竹下雅子、出光俊郎、長野寿人、丸山英里、松本崇直、高澤摩耶、山田朋子、今川一郎、梅本尚可、川瀬正昭、山本直人：組織像の一部でBowen病様変化を認め、malignant hidroacanthoma simplexの早期と診断した一例. Skin Surgery 29 (2) : 100-105, 2020
 - 9) 加倉井真樹、出光俊郎、梅本尚可、原田和俊：広範囲体部白癬のインド人2例とスリランカ人1例. 臨床皮膚科74 (8) : 633-639, 2020
 - 10) 山本亜紀、神部芳則、柏崎明子、森良之、小宮根真弓、出光俊郎：家族性および非家族性白色海綿状母斑におけるケラチン発現の免疫組織化学的検討. 日本口腔内科学会雑誌26 (1) : 16-21, 2020

- 11) 出光俊郎、神部芳則：I. 外用薬と外用療法の基礎知識 特別な部位への外用療法. *MB Derma* 300 : 15-23, 2020
- 12) 中村知寿、神部芳則、渋谷恭之、出光俊郎、森良之：ニボルマブ投与患者の口腔内に生じた苔癬様病変の1例. *日本口腔内科学会雑誌*26 (1) : 56-62, 2020

【著書・総説】

- 1) 出光俊郎：Title P 皮膚. 浅野嘉延、吉山直樹(編), *看護のための臨床病態学* 改訂4版, 南山堂, pp741-765, 2020
- 2) 出光俊郎、梅本尚可：鱗屑. *medicina* 57 (11) : 1840-1842, 2020
- 3) 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, 2020
- 4) 出光俊郎、高野博子：眼瞼腫脹 [Mikulicz病]. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp2-4, 2020
- 5) 出光俊郎：耳介と耳周囲の皮膚変化 [Sweet病]. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp5-6, 2020
- 6) 宮田聡子：酒皰 [Cushing症候群]. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp10-12, 2020
- 7) 出光俊郎：顔面の腫脹① [腫脹随伴性皮膚筋炎]. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp16-18, 2020
- 8) 高澤摩耶：多発性丘疹 [Degos病]. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp51-52, 2020
- 9) 出光俊郎、神部芳則：マイコプラズマ感染症 (マイコプラズマ関連粘膜炎). 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp133-136, 2020
- 10) 山田朋子：移植片対宿主病 (GVHD)②皮膚症状. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp172-174, 2020
- 11) 梅本尚可：サルコイドーシス②皮膚症状. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見*

抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-, 南江堂, pp182-184, 2020

- 12) 菅原由美子、出光俊郎：尋常性天疱瘡. 出光俊郎、神部芳則(編), *口腔疾患・皮膚症状から「見抜く」全身疾患-オラドローム・デルマドローーム-*, 南江堂, pp188-190, 2020

■ 泌尿器科

【原著論文 (英論文および和論文)】

- 1) Shirai K, Suzuki M, Akahane K, Takahashi Y, Kawahara M, Yamada E, Wakatsuki M, Ogawa K, Takahashi S, Minato K, Hamamoto K, Saito K, Oshima M, Konishi T, Nakamura Y, Washino S, Miyagawa T. Dose-volume Histogram-based Predictors for Hematuria and Rectal Hemorrhage in Patients Receiving Radiotherapy After Radical Prostatectomy. *In Vivo*. 2020 May-Jun ; 34 (3) : 1289-1295. doi : 10.21873/invivo.11904.
- 2) Washino S, Hosohata K, Miyagawa T. Roles Played by Biomarkers of Kidney Injury in Patients with Upper Urinary Tract Obstruction. *Int J Mol Sci*. 2020 Jul 31 ; 21 (15) : 5490. doi : 10.3390/ijms21155490.
- 3) Galfano A, Secco S, Dell'Oglio P, Rha K, Eden C, Fransis K, Sooriakumaran P, De La Muela PS, Kowalczyk K, Miyagawa T, Assenmacher C, Matsubara A, Chiu KY, Boylu U, Lee H, Bocciardi AM. Retzius-sparing robot-assisted radical prostatectomy : early learning curve experience in three continents. *BJU Int*. 2020 Aug 3. doi : 10.1111/bju.15196. Online ahead of print.
- 4) Oshima M, Washino S, Nakamura Y, Konishi T, Saito K, Arai Y, Miyagawa T. Risks and complications of robot-assisted radical prostatectomy (RARP) in patients receiving antiplatelet and/or anticoagulant therapy : a retrospective cohort study in a single institute. *J Robot Surg*. 2020 Oct 12. doi : 10.1007/s11701-020-01154-8. Online ahead of print.

【学会発表】

- 1) 鷺野聡、早瀬貴徳、宮川友明、荒井好昭：尿管結石における症状発現からESWLまでの期間と完全挿石率の関連性の検討、第85回日本泌尿器科学会東部総会、2020年9月25日~10月15日、Web開催

- 2) 矢崎海、杉原亨、茗荷宏昭、山崎正博、小松原麻衣子、亀井潤、藤崎明、安東聡、高山達也、藤村哲也：審査腹腔鏡により診断し得た膀胱癌腹膜播種の1例、第85回日本泌尿器科学会東部総会、2020年9月25日～10月15日、Web開催
- 3) 鷺野聡、齊藤公俊、小西鼓、中村勇貴、宮川友明：カルシウム拮抗薬内服は夜間排尿回数増加と関連性がある、第27回日本排尿機能学会、2020年10月15～17日、東京・品川

■ 歯科口腔外科

【論文】

- 1) Kaneko A, Matsumoto T, Iwabuchi H, Watanabe H, Matsumoto K, et al. : Antimicrobial susceptibility surveillance of bacterial isolates recovered in Japan from odontogenic infections in 2013. *Journal of Infection and Chemotherapy* 26 : 882-889, 2020
- 2) 長谷川稔洋、名島悠峰、宗像花楠子、家崎憲博、小川千春、山内智博：抜歯後出血を契機に診断に至った真性多血症の1例. *日本口腔外科学会雑誌*、2019. 65 (9). 611-616
- 3) 醍醐一也、小浜亜希、岡田成生、笹栗健一、野口忠秀、森 良之：GummySmileを伴う上顎前突症患者に対してDown fracture法による上顎前方歯槽部骨切り術を行った一例. *栃木県歯科医学会誌*、2019. 71. 23-26

【学会発表】

- 1) 醍醐一也、川嶋理恵、山本亜紀、野口忠秀、神部芳則、森 良之：難治性口内炎を契機に診断した第2期梅毒の一例. 第12回日本検査学会・第30回日本臨床口腔病理学会・第29回日本口腔内科学会・第32回日本口腔診断学会 合同学術大会、2019年9月20日～23日
- 2) 大谷津幸生、串田淳子、杉浦康史、田村知子、仙名あかね、渡邊秀紀、岡田成生、野口忠秀、神部芳則、森 良之：本態性血小板血症患者に対する下顎骨関節突起骨折の治療経験. 第32回日本口腔診断学会 合同学術大会、2019年9月20日～23日
- 3) 小佐野仁志、中野崇文、土屋欣之：抗精神病薬が奏功した口腔心身症の臨床的検討. 第34回日本歯科心身医学会総会・学術大会、2019年11月15～17日、大阪
- 4) 藤田亜希子、鈴木美佳、山内 萌、原 早紀、大塚 好、五十嵐有伊子、渡邊秀紀、小佐野仁志：リンパ腫に発生した腫瘍随伴性天疱瘡の口腔ケアの1例. 第17回日本口腔ケア学会、2020年9月2

日～3日、長崎

■ 産婦人科

【原著論文】

- 1) Takenaka S, Chikazawa K, Yoshiizumi E, Hirose Y, Tamate M, Nakayama K, Morioka M, Sekizawa A, Matsumoto K : Three-Dimensional Peripheral Bloodstream Model of the Uterus for Laparoscopic Radical Hysterectomy. *J Minim Invasive Gynecol.* 27 (5) : 1196-1202, 2020
- 2) Chikazawa K, Imai K, Ito T, Hayashi S, Kuwata T, Konno R : Delayed Ureteral Leak Related to Use of Suspension Tapes during Laparoscopic Radical Hysterectomy. *J Minim Invasive Gynecol.* May 28 : S1553-4650 (20) 30253-3. Online ahead of print, 2020
- 3) Chikazawa K, Netsu S, Imai K, Ishiguro A, Kimura A, Wang L, Kuwata T, Konno R : Nedaplatin use in patients with hypersensitivity reaction episodes to carboplatin. *Taiwan J Obstet Gynecol.* 59 (4) : 546-550, 2020
- 4) Imai K, Chikazawa K, Ito T, Kuwata T, Konno R : Manipulating the Uterus without a Manipulator or Human Hands : A Resolution Using Retractor and Forceps Tied with Gauze. *J Minim Invasive Gynecol.* Mar 3 : S1553-4650 (20) 30119-9. Online ahead of print, 2020
- 5) Chikazawa K, Kanao H, Wang L, Kuwata T, Konno R : Taking care of vesicohypogastric fascia : Enveloping bladder, uterine vessels, and ureter for safe laparoscopic hysterectomy. *Taiwan J Obstet Gynecol.* 59 (2) : 348-349, 2020
- 6) Chikazawa K, Kuwata T. : Why not use "Twitter" of core clinical journals for rapid dissemination of medical information during the COVID-19 pandemic? *Arch Gynecol Obstet.* 302 (5) : 1047-1048, 2020
- 7) Chikazawa K, Imai K, Wang L, Kuwata T, Konno R. : A cystectomic technique with low risk of rupture for women with benign ovarian cyst. *J Obstet Gynaecol.* 4 : 1-3. Online ahead of print, 2020

【学会発表】

- 1) 近澤研郎、根津幸穂、黄 弘吉、石黒 彩、伊東孝晃、今井 賢、入江佑子、王 良誠、堀内 功、桑田知之、高木健次郎、今野 良：ベバシズ

マブ併用化学療法は、プラチナ不応性再発卵巣癌の全生存期間を改善する。第72回日本産科婦人科学会学術講演会、2020年4月23-28日、Web開催

- 2) 石黒 彩、桑田知之、入江佑子、木村あずさ、大森 恵、今井 賢、王 良誠、近澤研郎、堀内 功、高木健次郎、今野 良：経膈超音波で見えない骨盤内腫瘍：会陰部痛での見落としを防ぐために。第72回日本産科婦人科学会学術講演会、2020年4月23-28日、Web開催
- 3) 今野 良：【シンポジウム 28】思春期男女にHPVワクチンを定期接種すべき－既に20歳代女子CIN3 発生が9割減少－接種継続は頸がん発生を1割にする。第94回日本感染症学会学術講演会、2020年8月19-20日、東京

【著書・総説】

- 1) 今野 良：HPVワクチンの現状は？. 小児科診療 83 (11), 1457-1463, 2020

■ 周産期科・新生児部門

【原著論文】

- 1) Wyckoff MH, Wyllie J, Aziz K, de Almeida MF, Fabres J, Fawke J, Guinsburg R, Hosono S, Isayama T, Kapadia VS, Kim HS, Liley HG, McKinlay CJD, Mildenhall L, Perlman JM, Rabi Y, Roehr CC, Schmölzer GM, Szyld E, Trevisanuto D, Velaphi S, Weiner GM : Neonatal Life Support Collaborators : Neonatal Life Support : 2020 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations. Circulation 142 : 185-221,2020
- 2) Kayama K, Hosono S, Yoshikawa K, Kato R, Seimiya A, Fuwa K, H. ijikata M, Aoki R, Okahashi A, Nagano N, Morioka I : Heart-rate evaluation using fetal ultrasonic Doppler during neonatal resuscitation. Pediatr Int 62 : 926-931,2020
- 3) 藤田 浩, 奥田 誠, 梶原道子, 小山典久, 鷹野 壽代, 細野 茂春, 松崎 浩史, 宮作 麻子, 矢澤 百合香, 宮田 茂樹：日本輸血・細胞治療学会分割製剤検討タスクフォース；血液製剤の院内分割マニュアル 改訂2.0.日本輸血細胞治療学会誌 66 : 517-523, 2020

【学会発表】

- 1) 櫻井淳, 細野茂春, 諫山哲哉, 清水直樹：ガイドライン2020の展望 NEO (新生児の蘇生), PLS (小児の蘇生), Maternal (妊産婦の蘇生). 第12回蘇生科学シンポジウム 2020年3月13日 京都 (Web開催)
- 2) 細野茂春：新生児輸血 新生児輸血の将来像. 日本輸血細胞治療学会 2020年5月28日~30日 札幌 (Web開催)

【その他】

- 1) Hosono S : Resuscitation and cord blood transfusion. Zoom teaching newborn care 2020年6月11日 (Web講演)
- 2) 細野茂春：新しい生活様式下での2020/2021シーズンのRSV感染重症化予防. シナジスインターネットライブセミナー 2020年6月16日 (Web講演)
- 3) Hosono S : Cord Milking and Resuscitation. Zoom teaching newborn care 2020年8月6日 (Web講演)

【総説】

- 1) 河野惇子, 丸山麻美, 市橋 光：新生児の脊髄超音波検査. Neurosonology 日本脳神経超音波学会, 33 (2), 33-35,2020
- 2) 細野茂春：検査 モニター ベッドサイドモニター. 周産期医学 東京医学社, 50 (4), 500-503, 2020.
- 3) 丸山麻美：検査 臨床検査 血液検査・生化学検査・凝固能検査. 周産期医学 東京医学社, 50 (4), 478-480,2020.
- 4) 細野茂春：気道確保と人工換気、NCPR. 臨床婦人科産科 医学書院, 74 (8), 773-778,2020.
- 5) 細野茂春：貧血の鑑別診断 小児科 金原出版, 61 (11), 1497-1502,2020.

■ 周産期科・母体部門

【原著論文】

- 1) Wang L, Hamamoto K, Kimura A, Ishiguro A, Horiuchi I, Takagi K : Over-expanded lower uterine segment : a cause of intrauterine balloon tamponade failure. Hypertension Research In Pregnancy, 2020
- 2) Chikazawa K, Imai K, Kuwata T, Takagi K : Prophylactic laparoscopic adnexal surgery with low-pressure CO2 insufflation for ovarian cysts during the late first trimester or second trimester of pregnancy. Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology 47 (4) : 537-540, 2020

【その他】

- 1) Ko H, Wang L, Ishiguro A, Kimura A, Omori M, Irie Y, Imai K, Chikazawa K, Horiuchi I, Kuwata T, Konno R, Takagi K : Hyperbaric area index, a novel method to predict outcome of patients with hypertension disorder pregnancy. Hypertension Research in Pregnancy 8 (1) : 2, 2020

■ リハビリテーション部

【学会発表】

- 1) 猿子美知、小原春奈、鈴木純子、関根一樹、永井勝信、宇賀田裕介、梅本富士、三橋武司、百村伸一、藤田英雄：監視型運動療法により心室性期外収縮が減少し、在宅運動療法に移行できた慢性心不全の1例。第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18日～7月19日、福岡
- 2) 安部諒、谷直樹、野中崇央：末梢動脈疾患患者の1年後歩行能力に関する検討。第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18-19日、福岡
- 3) 谷直樹、安部諒、鈴木大輔、笹井祥充、永瀬桃子、原一雄：虚血性心疾患の既往の有無と身体活動の関連性。第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18日～7月19日、福岡
- 4) 会田慶太、神谷健太郎、濱崎伸明、野崎康平、市川貴文、中村岳史、山下真司、内田翔太、古小高純章、小倉彩、岩村貴美、杉野加奈子、前川恵美、野田千春、松永篤彦、東條美奈子、阿古潤哉：高齢心不全患者における、運動耐容能を維持するために必要な身体機能の目標値の検討。

第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18日～7月19日、福岡

- 5) 永瀬桃子、笹井祥充、関根一樹、古田和代、伊部達郎、宇賀田裕介、和田浩、永井勝信、百村伸一、藤田英雄：終末期心不全患者に対する目標設定と多職種連携に焦点を当てた介入。第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18日～7月19日、福岡
- 6) 関根一樹、瀧谷春奈、猿子美知、鈴木純子、永井勝信、宇賀田裕介、梅本富士、百村伸一、藤田英雄：外来心臓リハビリテーションの継続により長期間再入院を回避できた心不全症例。第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18日～7月19日、福岡
- 7) 笹井祥充、関根一樹、永瀬桃子、谷直樹、柴田佳穂、伊部達郎、宇賀田裕介、和田浩、永井勝信、百村伸一、藤田英雄：急性期病院からの訪問心臓リハビリテーションの試み。第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2020年7月18日～7月19日、福岡

その他

■ 臨床工学部

【学会発表】

- 1) 永田夏海、草浦理恵、小久保領、内田隆行、梅田千典、安田徹、百瀬直樹：医療安全におけるインシデントレポートの活用－屈指のレポート数を維持する工夫と活用－. 第30回日本臨床工学会 2020/09/28名古屋国際会議場（Web開催）
- 2) 草浦理恵、谷中田佳昭、塩野憧、永田夏海、竹内寿里耶、田中杏実、金澤健太、楠本雅哉、佐伯将城、岡田ひとみ、松田考平、早坂秀幸、小藤誠也、安田徹、梅田千典、内田隆行、小久保領、百瀬直樹：PCPS（ECMO）の移動を容易にする工夫－補助循環領域の医工連携－. 第30回日本臨床工学会2020/09/29名古屋国際会議場（Web開催）

【著書】

- 1) 百瀬直樹：体外式膜型人工肺（ECMO）における臨床工学技士の教訓. *Clinical Engineering*, 2020/10/01, vol.0 (9,80-88,09)
- 2) 百瀬直樹：人工心肺ハンドブック改訂第3版, 2020/08/10, 中外医学社
- 3) 草浦理恵：重症患者におけるECMOの管理. 多職種でコロナの危機と向き合う, 2020/10/10, 日本看護協会出版, 19-24

■ 栄養部

【学会発表】

- 1) 猪野瀬渚、村越美穂、椎名美知子、宮原摩耶子、堀内由布子、来栖愛子、木造佳那子、平井啓之、大河原晋、森下義幸：栄養食事指導が血糖・体液管理に有用であった糖尿病合併導入期PD患者の1症例. 第26回日本腹膜透析医学会学術集会・総会、2020年9月19～20日、東京

編集後記

明けましておめでとうございます。

今回の発行にあたり年末のお忙しい中、菅原先生には巻頭言のご執筆を頂きましてありがとうございます。

また、多くの診療科よりご投稿頂きましてありがとうございました。

新型コロナ感染者が急激に増加する中、7日に2回目の緊急事態宣言が発令されました。

明日は我が身と思いながら感染対策を行っていますが、いつになったら平穏な日常が戻ってくるのか・・・

必ず春はやってくると信じて、今まで以上に各自感染対策をしっかりと行いましょう。



自治医科大学附属さいたま医療センター
研究だより 第56号

発行日 令和3年1月20日

発行 自治医科大学附属さいたま医療センター

発行責任者 センター長 遠藤 俊輔

編集 事務部 総務課
研究室

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847

TEL. 048-647-2111

FAX. 048-648-5166

題字 百村 伸一 前センター長

印刷 第一印刷(株)